



## ワールドカップ宮城・仙台友の会

### キックラブ活動年表

年月日	分類	会合・イベント	場所
00年11月23日	委員会	第1回キックラブ・ミーティング	仙台市城ヶ丘センター
12月10日	委員会	第2回キックラブ・ミーティング	推進委員会議室
01年1月7日	協力イベント	第2回ワールドカップセミナー	刈谷センター
同上	委員会	第3回キックラブ・ミーティング	刈谷センター
2月18日	委員会	第4回キックラブ・ミーティング	刈谷センター
2/23～3/1	協力イベント	サポーター新世紀写真展・講演会	メディアテーク
3月18日	委員会	第5回キックラブ・ミーティング	仙台市城ヶ丘センター
3月20日	参加	ワールドカップ・シンポジウム	埼玉
3月24日	協力イベント	宮城スタジアム見学会	宮城スタジアム
3月25日	主催イベント	キックラブブース設置	仙台スタジアム
4月1日	協力イベント	ワールドカップ・パネル展	塩釜市千賀の台
4月15日	委員会	第6回キックラブ・ミーティング	中央市民センター
4月25日	協力イベント	400日前イベント・カウントダウン設置	勾当台公園
5月6日	協力イベント	日韓友情ウォーク	宮城スタジアム
5月13日	委員会	第7回キックラブ・ミーティング	中央市民センター
5/19～20	協力イベント	2002 FIFAワールドカップ記念 in 青葉祭	仙台市西公園
6月10日	協力イベント	ワールドカップ1年前イベント	宮城スタジアム
6月17日	委員会	第8回キックラブ・ミーティング	NPOプラザ
6月24日	協力イベント	ワールドカップ記念フットサルフェスタ	シェルコム仙台
7/5～12	協力イベント	ベガルタ仙台&ワールドカップパネル展	モール長町
7月15日	委員会	第9回キックラブ・ミーティング	NPOプラザ
8月5日	協力イベント	仙台スタジアムまつり	仙台スタジアム
8月19日	協力イベント	利府町ワールドカップ勉強会	十符の里プラザ
8月19日	委員会	第10回キックラブ・ミーティング	仙台市城ヶ丘センター
9月16日	委員会	第11回キックラブ・ミーティング	仙台市城ヶ丘センター
10月21日	委員会	第12回キックラブ・ミーティング	仙台市城ヶ丘センター
11月4日	主催イベント	第3回ワールドカップセミナー	仙台市刈谷センター
11月10日	協力イベント	電動車椅子サッカー大会	宮城県刈谷センター
11月11日	協力イベント	宮城スタジアム見学会&セミナー	宮城スタジアム
11月18日	委員会	第13回キックラブ・ミーティング	仙台市城ヶ丘センター
12月1日	主催イベント	ファイナルドロー観戦会	ワールドサッカーカフェ
12月2日	主催イベント	ワールドカップ・フリートーク・フェスタ	ハーネル仙台

12月15日	協力イベント	21世紀のキックオフ	仙台市ソバセンター
12月15日	委員会	第14回キックラブ・ミーティング	仙台市ソバセンター
12月15日	懇親会	キックラブ忘年会	サンバサンバ
02年 1月13日	委員会	第15回キックラブ・ミーティング	シャフト
1月20日	協力イベント	ウェルカム・ワールドカップ	利府町十符の里
2月 9日	参加	2002 ワールドカップ開催都市市民サミット	東京
2月11日	協力イベント	ワールドカップパネル展	利府町青葉台
2月17日	委員会	第16回キックラブ・ミーティング	仙台市城ヶ丘センター
2月17日	主催イベント	イタリア勉強会	仙台市城ヶ丘センター
2月24日	協力イベント	THEイタリアイベント	セルバ
3月10日	協力イベント	イタリアキャンププレ講座	桂市民センター
3月10日	参加	第1回スポーツNPOサミット	神戸
3月17日	委員会	第17回キックラブ・ミーティング	仙台市城ヶ丘センター
3月21日	主催イベント	第1回宮城ワールドカップの集い	Samba2
4月 7日	協力イベント	第2回ウェルカム・ワールドカップ	利府町中央公園
4月21日	協力イベント	ワールドカップパネル展	利府町花園
4月28日	委員会	第18回キックラブ・ミーティング	仙台市城ヶ丘センター
5月 5日	主催イベント	ワールドカップ記念フットサルフェスタ	シェルコム仙台
5月19日	委員会	第19回キックラブ・ミーティング	菅谷台集会所
5月19日	主催イベント	クリーンカップ2002	宮城スタジアム
6月 2日	協力イベント	ラ・ピアツツァ（交流広場）	泉中央
6/8～18	協力イベント	サッカーパーク	勾当台公園
6月30日	委員会	第20回キックラブ・ミーティング	仙台市城ヶ丘センター
7月 7日	委員会	第21回キックラブ・ミーティング	仙台市城ヶ丘センター
7月21日	主催イベント	ワールドカップ・フリートーク・フェスタ	ハーネル仙台
7月21日	主催イベント	第2回宮城ワールドカップの集い	Samba2



まちに世界があふれた日々、まちわびたその時はあまりにも短く感じられた。

## キックラブ主要イベント活動報告 振り返れば懐かしい日々、間違いなく私たちはそこにいた。



### 第3回ワールドカップセミナー

年月日：01年11月4日  
 場 所：仙台市シルバーセンター  
 テーマ：ワールドカップとまちづくり  
 参 考：本報告書 p.17～19

さまざまなイベントの運営協力を通じてメンバー間のコミュニケーションとノウハウを蓄積し、満を持して仙台市とのタイアップ企画「ワールドカップとまちづくり」セミナーを開催、ワールドカップの開催地やキャンプ地における市民の活動を参加者と共に考えた。

### ファイナルドロー観戦イベント

年月日：01年12月1日  
 場 所：ワールドサッカーカフェ

韓国釜山で行なわれたワールドカップのファイナルドロー、仙台をはじめ全国の開催地、そしてキャンプ候補地が熱く見守る中、次々に組み合わせが決まっていく。そして、同じ時間、ネットでつながる国内開催地の仲間がいた。



### ワールドカップフリートウェア

年月日：01年12月2日  
 場 所：ハーネル仙台  
 テーマ：ワールドカップが  
 やってくる  
 参 考：本報告書 p.22～58



前夜の熱い気持ちをそのままぶつけるために時間をかけて準備してきたものが「ワールドカップ・フリートークフェスタ」だった。松本育夫氏の基調講演につづき、スポーツ・まつり・交流の3つの分科会を開催、多くの人のつながりを確認できた1日でもあった。そしてこの日、キックラブとしてワールドカップの開催前に、そして期間中に何をすべきかをまとめた「キックラブ・ビジョン」を発表したのだった。



### THE イタリアイベント

年月日：02年2月24日

場 所：泉中央セルバ

イタリア政府観光局 鈴木正文氏

「イタリアのスポーツ文化」



奇しくも2001年11月18日のJ2リーグ最終戦で劇的なJ1昇格を決めた地元ベガルタ仙台、皮肉にも行政の支援はワールドカップの開催地にJリーグチームが必要だから、というものだった。その恒例となったトークショーと、仙台市をキャンプ地として選んだイタリアを紹介するためのイベントを連動して開催。この時期のキックラブにとって、イタリアはワールドカップを身近に感じるための企画の柱となっていた。



### イタリアキャンププレ講座

年月日：02年3月10日

場 所：泉区桂市民センター

共催企画として実施したイタリアを中心としてワールドカップへの理解を深めるイベントだった。

### 国際交流フットサル・フェスタ

年月日：02年5月5日

場 所：シェルコム仙台

在仙の外国人に呼びかけてチームを募りシェルコム仙台を会場として開催されている「フットサル・フェスタ」。01年には運営に協力、02年は主催団体のひとつ

として参加した。このイベントを通じてサッカーの楽しさを体験できたメンバーも多かった。尚、優勝チームは01年のイングランドに続き02年度はブラジルチーム。今後、資金面や運営母体の課題をクリアし継続要望の強いイベントのひとつになっている。



### クリーンカップ2002

年月日：02年5月19日

場 所：宮城スタジアム周辺

国内のワールドカップ開催地が連動して企画した「クリーンカップ」、それは会場周辺のゴミを回収し、気持ちよく観客を迎えたいというものだった。

### サッカーパーク準備

年月日：02年5月19日

場 所：利府町菅谷台集会所

開催が近づき、その準備のために選んだのは宮城スタジアム近くの集会所。

芝お守り作り・キックラブ神社の鳥居作り用語集の折込、手分けをし、この時期盛んに流れていたワールドカップの公式ソングを聞きながら時間のある限り作業を続けた。





### ラ・ピアッツァ（交流広場）

年月日：02年6月2日

場 所：泉中央ペデストリアンデッキ  
サッカーをテーマとした交流広場、1日  
だけであったが、サッカーパークでの  
キックラブブースの手ごたえを感じたく  
て時折強風の吹く中参加した。

### サッカーパーク

年月日：02年6月8日～18日

場 所：仙台市勾当台公園



雨の日もあった、風の日もあった。それでも、たくさんの人の笑顔があった。

日によってはスタッフが不足し、つらい日もあった。人気のフェイスペインティングに長い列ができた。芝お守りを素直に喜ぶ外国人がいた。サッカーパークの最終日は雨。日本代表が宮城スタジアムで負けた。

**ワールドカップの光景** まちが、人がどことなく輝いていた6月。

イタリアがキャンプしていた。仙台は選ばれたまちだった。





### 第3回 2002年ワールドカップ講座 「ワールドカップとまちづくり」

2001年11月4日(日) 13:30~15:30

仙台市シルバーセンター 6F 第2研修室

講師:(財)日本システム開発研究所 国土計画研究室長 木田 悟氏

私は、静岡の清水の出身で、昔はサッカーをやっていました。高校時代は細かったです。

たまたま7,8年前にJリーグの関係でスポーツを核とした地域の活性化調査をやりそれ以来、ワールドカップをきっかけとして住民参加による地域づくりができないか調査をしています。

また、国土交通省の依頼で調査書を作って開催地などに配っています。

ワールドカップが皆さんの町に来るに当たって自治体も含めてお金とか人材とかを相当費やしています。それをたった3試合やっただけで終わらせてしまうのは非常にもったいないです。

それとキャンプ地の候補について言えば八十いくつありますが大部分の所はキャンプ地になれないです。そうするとキャンプ地の誘致活動をしたのが無駄になってしまいます。何の為に行政が関与してやっているのか、だったら、キャンプ地になれなくても誘致活動が地域の為になるのならと思ひ先ほどのような調査をやっていました。

今日配ったペーパーの中に「背景と報告の目的」とあるように、たった3試合するためにせっかくの活動を終わらせたらもったいないです。やる前もやった後も含めて組織とか活動を実のあるものにしていったらいいのじゃないか、地域づくりに関与していったものにしていったらいいのじゃないかと言う事が目的で今日の話があるのではと思います。

「スポーツによる活性化」とは何か。

スポーツは昔、学校体育としてやってきました。学校を卒業するとなくなります。スポーツというよりも体育と言った方がわかりやすい時代がずっとありました。学校体育をやっているのは世界では少ないです。多くの国はスポーツの形でやっています。施設を自治体が借りて月に何回かスポーツの形でやる形です。

日本だとグラウンド、体育館、プール等の施設が学校にあってそれ以外に行政の方で同じようなものがあります。今は少し変わっているが学校の施設は学校でしか使えません。ヨーロッパなどはスポーツコンプレックスといって自治体に一つしかないです。そこを学校が使わない間は市民が使っています。クラブが主催して施設の申込を行っています。そういう中でサッカーのチームなどがありプロになったりしている状況にあります。スポーツが生活の一部になっています。クラブハウスが地域のコミュニティの場になっています。

一方、日本はJリーグがそのような考えでやっています。

地域活性化効果を以下の様に整理しました。

地域コミュニティ形成効果、 地域アイデンティティ醸成効果、 他地域との交流促進効果、 人材育成効果、 経済・産業育成効果

たとえば、「地域アイデンティティ醸成効果」と言うのは他地域に行った人が出身地を語る事

によって将来出身地に戻ってきて地域をよくしようという効果があります。

「ワールドカップ」とは何か。

「ワールドカップ」という言葉を最初に使ったのはサッカーです。ヨーロッパではフットボールと呼んでいます。昔は「ワールドカップ」ではなく「ジュールベリ杯」といっていました。これを3回優勝したブラジルが永久保存の権利を取ったので「ワールドカップ」を新たに作りました。2002年の大会は、5月31日に韓国ソウルで開幕し、6月30日の横浜での決勝戦で終了します。

概ね、一地区で3試合を行ないますので、盛り上がり面で問題があります。2カ国での共催も初めてです。

FIFAという組織はNPOのようなものですが、それだけに利権がいろいろ絡んで日本にそのつけがまわってきて苦労しています。スポーツ文化の根付いていない日本のような国で開催するのは初めてです。FIFAの世界戦略の一部で「たまにはアジアでやってみよう」と言う話になりました。他開催地は国が関与していますが、JAWOCは国の組織ではありません。法律の改正等苦労している面が多いです。

ここからはスライドをみながら説明したい。

韓国のキャンプ候補地を示す 候補地に自治体が関与するのは初めてです。フランス大会では結果として自治体が関わっていたが、最初から関与するのは日本が初めてです。韓国では関与していません。

韓国で行われる試合をグループ毎に示す

日本のキャンプ候補地を示す

日本で行われる試合をグループ毎に示す 大会の始まる5日前から終わった2日後まではFIFAが資金を出しますが普通はもっと長く一月間くらい滞在します。試合会場を考えながらキャンプ地を選定するでしょう。地理的に中部地方は有力です。

(約17分録音が空白)

フランス大会のアルゼンチンキャンプ地、エトナのスライド説明

同大会のメキシコキャンプ地、ナンジスの説明 学校給食にメキシコ料理を出したり選手と交流会を開いたり、青少年の教育に効果がありました。ボランティアなど子供を考えた活動は重要です。

(スライド以上)

キャンプ開始までの地域づくりに関わる運動

住民参加系、交流促進系と分けて表を作りましたが、一般的にワールドカップに関してそれほど関心が高いとは思えません。でも、キャンプ地になること、開催地になることは我々が生きているうちにはもうないでしょう。であれば、皆でやろう、こういうチームがくるんだぞ等の告知が必要です。その上で交流促進をやることです。

キャンプ期間中の地域づくりにかかわる活動

チームが来てキャンプをするという事は、お祭りをするんだという意識を持てばいいのじゃないでしょうか。キャンプチームは勝ちに来ているのでこちらがいろいろ仕掛けても乗ってこ

ない場合もあります。しかしお祭りと同じように「あそこに神様がいるんだぞ」という雰囲気  
でみなで楽しめば、わかりやすいのではないのでしょうか。チームがきている事の価値を町づく  
りに生かすことができます。

#### キャンプ地における効果

マスコミをうまく利用します。仙台の場合、「国際都市仙台」と言っているので、世界中に  
その情報を流す事が大事です。マスコミを活用、マスコミに情報提供する、マスコミと交流す  
る事が重要になります。名前が売れる事が経済的にも波及効果を及ぼします。

サッカーが世界で盛んになった理由は、植民地政策であり労働者政策であったから。ヨーロ  
ッパは階層社会です。フランス大会は大統領がサッカーが好きで盛り上がったがある意味では  
政策なのでしょう。下層階級のスポーツではないという盛り上がりを作るのも一つの展開でし  
ょう。そういう関係は、階層差別の無い日本ではなかなかわかりません。

モロッコのキャンプ地であるエクサンプロバンスは中、上流階級の人が多く、特に活動は行  
わず、地域としての効果はありませんでした。ただ、マルセイユに近く、試合の宿泊者が出る  
などの波及効果はありました。フランスでは、行政が対応した所としてないところではそれな  
りの差がでました。活動をしないと効果は現れない、へたをすると場所貸しだけで終わってし  
まいます。

#### 仙台市における今後の課題

仙台市は開催地で人はいっぱいくるのだから、いろんなイベントがあってしかるべきです。  
もっと全体を盛り上げて「仙台」を発信します。フランスのナントは政策的にいろいろ仕掛け  
ました。ガリバーの利用、ジャズフェスティバルなどをやりました。資料を持っていますので言  
ってください。

以上  
(文責、野坂)

## 2002FIFA ワールドカップ™ フリートーク・フェスタ基調講演

### 「ワールドカップがやってくる」

2001年12月2日(日) 13:00～14:00

場所：ハーネル仙台

講師：松本 育夫氏

(サッカー解説者・元川崎フロンターレゼネラルマネージャー)

#### <ワールドカップとの出会い>

皆さんこんにちは、というよりもワールドカップ、世界のファンの皆さんこんにちは。今日は天皇杯も行われ、なお且つJリーグの一位を決める決定戦まで行われるというところで、ここにお集まりの皆さんはどちらかといえますと国内のサッカーは関係ない、国際サッカーの方が大事だというそんなメンバーのお集まりだと思います。

なぜかと言いますと、私も1966年のロンドンの大会から実際にワールドカップを見に行きまして、その前にびっくりしたのは、ペレが登場した1958年にスウェーデン対ブラジルの試合を見ていわゆるフィルムで見た訳ですけども、「これが世界のサッカーなのかな」という漠然とした印象を持っていたのですが、実際に1966年に日本の代表チームが、当時長沼監督、岡野コーチというブレインが敢えて、我々代表チームがワールドカップを見られるというそんなスケジュールを作ってくれて、その見た中からサッカーって本当にすばらしい競技だと言う事を知らされて現在まで来ているわけです。

その間、ロンドンの大会、'74、'78、'82、'86、'90、'94年は実際に自分の目で確認して、'82年のスペインのワールドカップ、それから'86年のメキシコ、'90年のイタリア大会はNHKの解説をやらせてもらって、サッカーのファンにはいろいろとトラブルを起こすものと解説をさせて頂きました。

ただ、今の私が当時のワールドカップを見た方とお会いしました時に、テレビでご覧になった方から言われた事、「松本さん、このフレーズ、ワードよかったですね」といわれたことは、たまたまスペインのワールドカップの時に「これが世界のサッカーだ」と言う事を叫んだ訳です。その絵が画面に出た瞬間、「これですよ」と言ったわずかひと言で、現在のサッカーファンになっている方も何名かいます。東京で時々酒を酌み交わす事もしています。

#### <なぜ、サッカーが発展したか>

今日、ここにきたら「松本さんてサッカーやってたんですか？」と言われて歳を感じた。今年で60歳になります。そろそろ、若いサッカーのファンから私の名前も忘れられてきたのかなと思います。今日は古い話から新しい話まで幅広くということになります。

この後、分科会でもっと詳しく分析します。ここではワールドカップのさわりをお話します。

なぜ、サッカーが世界のスポーツとして発展し4年に一度の地球上の祭りになっているのかから話します。

ここで野球の話をするとおろかではあるが、今日本の文化の中でスポーツ・野球の世界とサッカーとは全く異質のものです。なぜかという、野球で、ランナーが一塁に出た場合、彼をホームに迎え入れる為の戦術は選手が考えるのではなく、監督あるいはコーチがその選手を動かす指示を与える。選手は彼らの考えている戦術を技術によって表現する。これは日本のスポーツの文化となっている。人から与えられた物の考え方をその通りにして結果を出すという歴史はずいぶんあった。

しかし、サッカーは違う。ゲームが始まった瞬間から終わりの瞬間まで、監督がこうしろと指示した瞬間に、

もうそのプレーは過ぎている。つまりゲームの間は選手 11 人がすべて自分で判断し、表現する。それがサッカーの最も素晴らしいところであり、現在のサッカーに大きく貢献した考え方であるし、原点でもある。これが世界の文化での人間の生き方で最も必要なのだろう。こういうことをサッカーが教えてくれる。だから、レベルが上がればあがるほど一人一人の局面の解決方法の種類が多くなる。

例えば、我々が見た 1966 年の試合で印象があるのは、準決勝のポルトガルの試合、決勝の西ドイツとイングランドの試合です。当時のスーパースター、ポルトガルのオイゼビオ、西ドイツのベッケンバウアー、イングランドのボビー・チャルトンが動く事によって残りの 10 人の選手が動かされるという大会だった。ボールを持った選手に対する選手の数は現在よりもはるかに少なかった。複雑にはなっていなかった。

### <サッカーと国民性>

サッカーというスポーツはボールを持った選手の表現がすべてです。ですからその表現には、その国の国民性が必ず出る。

日本と韓国とを比べた場合、顔も体形もそれほど変わらない。しかしサッカーの歴史には大きな違いがある。両国の国民のものの考え方の違いがサッカーにすべてでてくる。生まれた時から気候風土、宗教、食事、教育など人間を形成する多くの要素が国によって違います。その文化の中で育った選手の表現がサッカーの中で出てくる。サッカーの違いがその国の国民の表現になって出てくる。ブラジルは 4 年に一度の大会の為にそれまで貯めたお金を投資してしまう。それは、自分達の文化が世界を制した喜びに浸りたいから。世界でサッカーが発展してきた大きな要素がそこにある。

スペインとフランス、陸続きの国のサッカーがどれだけ大きく違うか。スペインは局面で激しいサッカーをする。動きが速い、情熱的でドリブルが局面で多く使われるサッカー、国内では強いが海外に行くといふ弁慶になる。フランスは、中盤の美しさがある。中盤プラティニなどのカルテット、リズムに乗った美しいサッカーを来年も見せてくれるだろう。その伸びてきた要素は 20 数年前、若手を育てる理論を指導者の中にみつけた。フランスの指導者がドイツに来てレクチャーをしていた。無理無駄のないサッカー、ハーモニーがある、それを私も聞いた。それが現在に生きている。だから今も優勝候補の一角である。イタリアとフランス、イタリアとスイスも隣の国同士だがそこで行われるサッカーは全然違う。

もう一つ、ヨーロッパの中で極端なサッカー、ドイツらしさを持ったドイツのサッカーがある。ゲルマン民族の戦う姿、激しい物がある。プキッショです。器用なのはベッケンバウアーだけ、後は不器用だが理論と、人に負けたくない精神的強さだけは持った国、それがドイツです。

このドイツとフランスは隣同士の国です。それがどうしてここまで違うか、それは人間を育成した要素がそれぞれ違うからです。ここに 4 年に一度盛り上がるワールドカップがある。スポーツの戦いと言うよりも文化の戦いと言うべきで物ある。それに代わる物はない。サッカーはその国を表現した文化となっている。

ただ、近年アフリカの選手が他国の国籍を取るなど別の動きも出てきている。

### <宮城にくるチーム>

今回、宮城には 6 つのチームが来る。アルゼンチン、スウェーデン、エクアドル、メキシコ、それと決勝トーナメントになったときが大変ですね。日本が H グループ 1 位で通過すればこの宮城スタジアムに来るが、相手はブラジルなのかトルコなのか非常に興味深い。いろんな見方ができるが、サッカーと言う見方を文化から見てもいいかなと思います。そこにワールドカップの原点があるだろう。

三つほど皆さんに「おめでとうございます」という話をしたい。まずは雅子様のご出産を「おめでとうございます」と言いたい。二つ目はベガルタ仙台の J1 への昇格です。これも宮城の皆さんには本当に喜んでいただけたと思います、おめでとうございました。三つ目はイングランドが宮城に来なくて「おめでとう」と言わなければならないでしょう。

イングランドが来ると大変なことになると思います。仙台出身で世界のサッカーを知っている人と話をしたが、彼は、「イングランドが来たら宮城県の方は家から出ないんじゃないかと思います」と言った。蒸し暑い6月、上半身裸、刺青を入れた大男が酒に酔っ払って集団で青葉通りでも通られたら皆さん「それはちょっと待てよ」となるでしょう。札幌は大変でしょう。私はイタリア大会の時、偶然、ゲームが終わって引率されて歩いていたらそれはフーリガンの一団の列でそのまま電車に納められた。

フーリガンが来たら仙台駅から一番町くらいまでのいい店、ディスプレイなどが美しい所などは、窓は壊され、ドアはめっちゃめっちゃにされるだろう。ホテルに泊まることはなく、駅辺りで寝るだろう、その間ずっとお酒を飲んでいる。2メートルもあるような大男ですよ。ただ、日本は海で囲まれているので飛行場でそれらをコントロールできるでしょう。ただ、タマゴはいるでしょう、まして今回イングランドは優勝候補に入っているののでこのフーリガンたちが暴れる事はすでに予測ができる訳で、それで、宮城に来なくて「おめでとうございます」と言う事になります。

### <印象に残る選手>

ワールドカップの思い出を話すとキリがないが1966年のワールドカップで初めてペレをみた。こんなに素晴らしい選手がいるのかと思った。スーパースター選手には2つのタイプがあると思う。一つは、どんな指導者が指導しても作れない選手、これでプレーする選手と、ああこの選手は相当練習をやってきたからこまできたスーパースターだなという二つの分け方があると思う。特に1982年のマラドーナまでは、とてもじゃないが指導者が作れない選手がスーパースターとして君臨していた。

一人はペレ、二人目はベッケンバウアー。左サイドから優雅にするサッカーはヨーロッパの指導者は作れるはずがない、持って生まれた物だろう。次は、クライフ。あのかみそりのような切れ味鋭いプレー、相手のゴールから自分のゴールまですべての仕事をしてしまう、こんなプレーを見たときはびっくりした。

その次にマラドーナ。何でびっくりしたかという相手はタックルに来る瞬間にツーンとボールを突っつく訳です。タックルした足の向う側にボールが出ている。タックルした選手をポンと飛び越して最初に地面に着いた足がボールを捕まえている。このプレーを見たときにこれは絶対作れないと思った。ただ、イングランド戦のいわゆる「神の手」は誰でも指導できるのではないかと思う。

これ以降1986年以降に出てきた選手は相当練習をしている。練習はしているが人に教えられる時間が多過ぎる為に持って生まれた物が失われて、人から教わってサッカーをしている。1986年のメキシコ大会では、マラドーナの活躍もあったが、その他にはスーパースターはそれほどではなかった。1990年は西ドイツが優勝したくらいだからまあそれほどと思う。1994年、アメリカ大会は暑くてどうしようもなかった。プレーするよりも暑さ対策を選手がしていた。動く量が少ない、だからサッカーは面白くなかった。サウジアラビアなどの暑さに強い国がベスト8に残るなどと言う事もあった。前回フランス大会は、ジダンがでた。前線の速いフォワードの選手もでていますが、あのくらいはこれからもいくらでも出るだろう。しかし、1982年以前の、指導者に育てられたのではない選手、マラドーナ、クライフ、ベッケンバウアー、ペレなどのスーパースターは私の頭から離れないです。

### <1966年の大会>

いろんなゲームを見てきたが、印象に残っているゲームは、1966年、北朝鮮がイタリアを1対0で破った。その後、3位になったポルトガル、オイゼビオがいたが、そこをやった時、前半3対0という情報が入った。これはまたポルトガルを破るかと思ったら、試合が終わったら5対3で破れた。オイゼビオがハットトリックをやった。そのゲームを見た後、飛行場に行ったら北朝鮮の選手に間違えられてサインを求められた。「我々は日本だ」と言うと、「日本はどこにあるか」と聞かれた。まだまだ日本は知られてなかった。たまたまアジアの国という事でサインを求められたのだった。

1966年の大会は北朝鮮がこうして活躍したわけだが、なんと言っても決勝戦の西ドイツとイングランドの試合が印象に残っている。当時はサッカーという事よりも国を代表して戦うという強度がものすごく強かった。だから選手達の愛国心が表現されたゲームだった。なお且つ、決勝戦での勝ち越しの点数、ハーストが打ってバーに当たって下に落ちた訳です。そのボールがゴールの中に落ちたのか、外に落ちたのか物議をかもしたが、ソビエトの審判がゴールと認定をした。その後、ドイツに行ったが、当時のフィルムが残ってて、それをスローモーションにしたり、リプレイにして何度も見せてドイツの協会が「絶対にこれは入ってない」と言った。「ドイツとロシアが戦った、そしてロシアのレフェリーが我々を破った」と言うドイツ人が多かった。

イングランドは、ゲームメーカーのボビー・チャールトンや右ウイングのアラン・ゴール、日本の選手と身体が同じくらいの選手のドリブルのうまさ、またセンターフォワードのハースト、バックスにはボビー・ムーア、ジャッキー・チャールトンがいて、非常に印象が深かった。

### <システムの変遷>

サッカーの歴史の中でこの大会は、一つの大きな変遷があった。1958年と1962年、ブラジルが連勝した。1958年スウェーデンの大会で5対2、1962年のチリの大会もブラジルが勝った訳ですが、その時、ブラジルが用いたシステムが、4-2-4 というものだった。今のサッカーでは考えられないが中盤が二人、ジジとババというパスを出せる選手だった。前線にいたガリンシャ、生まれた時から右足と左足の長さが違う為のできるプレー、「ガリンシャのフェイント」。両足の間にボールをはさんでそれを背中を廻してポーンと前に出すというトリッキーなプレイ。彼とベレ、左に代表チームの監督もやったザガロがいた。変則的な4-2-4というシステムの歴史があった。

1966年、このブラジルを破る為に考え出されたドイツの「スーパー」というシステムが現在の「リベロ」になっている。シュルツがそうだが、守備の中心にもなるし、攻撃の中心にもなる、パス一つでいいタイミングで攻撃に参加する新しいサッカーの歴史が、この1966年に変わって来た。このリベロのようにバックを一人余して、その選手が攻撃に入っていく4バックシステムがそのままきた。

が、1974年の大会で思わぬ事がでてきた。日本ではヨーロッパや南米のサッカーの情報は1978年のアルゼンチン大会で初めてNHKがワールドカップの放送をして、その時の解説は日本代表監督の二宮さんだったが、その4年前の大会で、クライフという選手がでてきて、「トータルフットボール」をやった。

クライフは味方の前でタックルして守備をしたり、中盤ではつなぎをやる、また最前線にでて、左に流れて左からクロスボールを上げてシュートをさせるし、自ら点も入れる。当時、背番号はだいたい番号順だったが、このオランダはどういう所ににどの選手がいるか決められてない、ただし上から見ていると11人の選手の配列が全然乱れていない、ポジションは変わるがチームとしてのポジションのバランスは壊れていないという「トータルフットボール」が出てきた。

それ以来サッカーという物が大きく変わりつつある。それは、ポジションというものの考え方です。「オールマイティー」、「スペシャリスト」という考え方がでてきた。いろんなポジションによってそのポジションにあったプレーのできる選手が養成されてきている。

1986年頃まではスーパースターがチームの柱になって活躍しているところが多かった。ところが、スペシャリストが養成されたサッカーとなると全体のレベルが上がってきているのでトータルとしてのサッカーは非常に面白くなっている。私が見たワールドカップはスーパースターがいるサッカーに満足していた。現在は11人でやるサッカーに素晴らしいプレーを見出す喜び、こんなところが一つの見所になると思う。

今まで、来年を含めて17回の大会が開かれ、70数年の歴史の中で、優勝した国はわずか、7カ国です。つまり、この7カ国が世界のリーダーとしてサッカーの歴史を作ってきたと言っても過言ではないです。イタリア、西ドイツ、フランス、イングランド、ウルグアイ、ブラジル、アルゼンチン、です。

前回から4年過ぎた今回の大会はどうなるか、きっと過去の7カ国の中から優勝チームが出るだろうと予

測してます。前評判ではポルトガルがいいが、あそこの国民性では決勝に勝てない。歴史を持った国でなお且つ闘争心がある、それに国民に「サッカーをサポートする」という偉大な力がある国でないと勝てない。7カ国のサッカーの背景、国民性を考えるとこの中から優勝国ができるのではないかと。当初、15、16 チームで戦ったことがある。1982年スペイン大会に24カ国、前回フランス大会から32チームになった。32のチームが出てくれた方がいるんなサッカーを見られて楽しい。

### <サッカーと社会>

今、ワールドカップには大切な社会的責任がある。日本チームが海外に行くのにテロの事があるから躊躇する声があった。その時、会長の岡野さんが「行きなさい」と言った。テロという社会的問題だ。中近東の生活している民族の、豊かな国に対する反抗がかなり根強い。彼らが素晴らしい生活をしていたら多分テロはなかっただろう。なぜ、人間として生きているのに、生活の違いがあるのだろうという反発がテロの根底にある。

スポーツの役割、例えば、宮城にくる5ないし6カ国に対しいかなる事をやるべきか、大切になる。日本と言う物を理解してもらい、日本民族がどれだけ世界に心と言う物を提供できるか、そういう物が平和への貢献としてサッカーが重要な位置を占める。だから飛行機の心配をするよりも、国際平和に貢献するというスポーツの立場を考え、岡野会長が日本をフランスの国際大会へ送り出した。

宮城のサッカーの好きなメンバーがスポーツにおける平和への貢献を是非やって欲しい。1980年代サッカーによって戦争が行われた国がある。南米のエルサルバドルとホンジュラスの予選がうまくなかったという事で両国が一週間の戦争をした。

宮城県民の心を、来県した人達に提供して欲しいです。少し硬い話になりましたが、同じ地球上に生まれてなぜここまで差があるのかという反発がこういうところに出ているので、サッカーを通して世界の人に対する日本の人の理解と言う物を我々はしなければならぬと思う。

### <抽選結果を受けて>

昨日の組み合わせが、はらはらどきどきさせられた。韓国会長のチョン・モンジュさんが裏工作を心配していたが、実際抽選結果を見るとまずそういう事はないなと感じた。D組をみるとわかります。韓国、ポーランド、アメリカ、ポルトガルがいる。日本の新聞では、ポルトガルとポーランドが勝ち残るのではないかと書かれている。それはともかく公正に抽選が行われた気がします。

1979年、ワールドユースの監督をやった時、今日のパネラーの一人鈴木淳君もその時の選手ですが、現会長のブラッターは当時事務局長だった。その彼が大会前「おい、マツモト。日本はどここの国とやりたいのか」と聞いた。開催国を残して大会を盛り上げたいのだ。地域別に分けるので、アジアの日本には、アフリカ、中南米、ヨーロッパが入ってくる。私はアフリカの情報を持ってなかったが、ナイジェリア、スペイン、メキシコがきた。前もってこういう国とやりたいと答えていたら、抽選をやるとその通りになった。だから昨日はそういうことがでてくるかと思ったがこの組み合わせをみるとそういう事はなかったとほっとした。

それぞれのグループをみてみると、

まずA組、フランスの1位は間違いないだろう。詳しい理由は分科会で言います。2位にデンマークを押しします。デンマーク、ウルグアイ共に守備が堅い。ウルグアイは速攻型の守備、デンマークは長いパスでグラウンドを大きく使う守備、そうするとチャンスがウルグアイには少ないだろう。それとヨーロッパのスピードということでデンマーク。もう一つグラウンドの状況です。南米はグラウンドが固いです。デンマーク、韓国、日本はあまりグラウンドが固くないです。ヨーロッパのチームが活躍できるようなグラウンド状況なのではないかと思う。

B組は、スペインが出てくるでしょう。2位にパラグアイかスロベニアですが、パラグアイは、予選でゴールキーパーのチラベルトが2試合出場停止になっているのが大きいです。彼はパラグアイのスーパースターで

す。彼が後ろにいる事によってバックスは安定した守備ができる。それがキーパーが変わることによって後ろに対する守備が変わってくる。スロベニアは新しい国だが、手堅いサッカーをします。予選での失点が少ないです。だから、スペインとスロベニアです。

C組はなんといってもブラジルです。2位は進境著しいトルコです。トルコが中国とコスタリカに負ける事はないでしょう。トルコとブラジルは次の対戦相手によって駆け引きがあると思います。H組の勝敗を見ながらするでしょう。

D組は心配です。ポルトガル、ここは油が乗りきっています。ワールドユースで連勝した年代が、熟年、27~28才になってます。フィーゴというスーパースターがいます。中盤もしっかりしてます。ドリブルとパスの両方がしっかりしてます。

2位が問題です。韓国、ポーランド、アメリカですが、侮りがたいのがアメリカです。がんばるんですよ。この32カ国の中で、国という物を誇れる戦いをするのがアメリカ人です。上手くはないけどがんばれるんです。韓国も地元でがんばるんです。ポーランドはヨーロッパを勝ちぬいただけに守備がしっかりしたチームです。

開催国という事で多くのファンが応援するだろう、ですからここは、韓国がなんとか勝ちぬいてくる、ひょっとしたらポーランドがくることもある。

E組はドイツで決定。ドイツの事前情報はよくないが、伝統と歴史があります。ドイツ民族のよさはこういう所でまとまる事と、理論的に物事を解決するチームだからわずかな時間に修正してくるだろう。それからカメルーンだろう。サウジ、アイルランドはしんどいだろう。

F組はこの大会の最激戦区、どの国がくるかわからないです。アルゼンチン、ナイジェリア、イングランド、スウェーデンですが、優勝候補チームは予選リーグをある程度まずいゲームをする訳です。力を全部出すとどこかで切れます。この事を知ったのは74年の西ドイツの大会です。予選リーグで西ドイツは東ドイツに1対0で負けた。ところが優勝は西ドイツだった。予選ではいいゲームはしてなかった。決勝トーナメントで甦った。

予選で120パーセントのチーム作りをするアルゼンチンはしんどい、しかしそれをやらざるを得ないチームがここにきている。だからこの戦い方は難しいです。イングランドも予選でドイツをアウェイで破った力がある。侮りがたいし、タレントが揃っている。ここへアフリカの雄ナイジェリアがはいっているのが難しいが敢えて、アルゼンチンとイングランドが抜けてくるだろう。イングランドに代わってスウェーデンが出てくるかもしれない。

G組はなんといってもイタリアです。世界一激しい国内リーグを消化している選手たちは相当なレベルにある。イタリアは1982年のスペインのワールドカップで3試合とも引き分けたことがある。そのイタリアがよみがえって、優勝して大統領が迎えにきた。1カ月のロングランをどうこなせるか、それが力のあるチームだ。

H組は、分科会でも話をしたいが、チュニジアはともかく、ロシア、ベルギーと戦う日本、勝敗いずれも甲乙つけがたいです。ベルギーは6大会連続予選を勝ち抜いたチーム。ロシアは、私達がやった頃、勝った事はないです。3点差以上必ずつけられた。陸上とサッカーが盛んなところです。

日本のチームだけが予選から120パーセントの力で戦う必要がある。そうしないとゲームを失う可能性がある。当然一ヶ月間120パーセントでは戦えないです。それが日本のサッカーの現状です。そうなれば、過去の7カ国が出てくる。予選で相手の顔を見ながら、他所のグループの動きを見ながら戦えるチームが出てくる、ただアルゼンチンだけはそれはできないだろう。

### <日本の戦い方>

決勝トーナメント、6月18日に宮城に来るチームだが、やってみなければ判らない可能性でH組1位に日本がくる可能性もある、しかし予選でおちる可能性もある。日本にトップできてもらいたい。可能性はある、120パーセント戦った時です。

今、日本が国際ゲームで何がいいか、それは前線と中盤の早いチェックです。これができなかったら今の日本のスリーバックでは無理です。このスリーバックは、松田、それと今のエスパルスのキャプテン(森岡)、それと左が服部であるか、アントラーズのあいつ(中田)であるかわからないが、いずれにしても彼らはスピードがないから前線と中盤でサッカーができないときは苦しいだろう。

ベルギーとロシアだが、一戦目で勝てば光が見えてくる。ベルギー戦は前線からのチェックはやりやすいです。ベルギーは系統的にオーソドックスです。4バックで、2トップです。ですからトルシエの3バックのサッカーができたときに勝利がみえてきます。

ロシアの場合は、中盤にいいタレントを持った選手がいる。ドリブルとパスができる選手がいるので、かわされるとしんどい。3-5-2で相手のゾーンでボールを奪うサッカーをするべきであろう。味方のゾーンに入られると苦戦をするだろう。バックの3人がなるだけ前のほうでプレーをする事が、H組の日本に求められる事だろう。

当然、スタジアムには日本をサポートする6万から7万の選手がいる。それは大きいです。チームが互角の戦いをする中でサポーターの役割がどれだけ選手に力を出させるか、相手のチームが守勢にまわることになる。この中で中盤から前のサッカーができれば日本に勝ち目がある。宮城の6月18日、日本の相手はトルコになる可能性が強い。それができたら、日本のサポーターにとってこんなうれしい事はないです。この筋書き通りに是非選手たちが頑張ってくれたらありがたいなあと思います。

開催地で行われるとそこが強いです。例外はスウェーデンで行われたブラジルの優勝だけです。中南米の大会では中南米が優勝、ヨーロッパの大会ではヨーロッパのチームが優勝してます。今回はニュートラルな日本と韓国が大会を開きます。ヨーロッパも南米も条件は五分五分です。なおかつ大きな要素はグラウンドです。ピッチの状況はどっちに有利になるか、それと気候です。アメリカの暑さに比べると湿気は克服できると思います。雨が降ってぬかるんだグラウンドはヨーロッパの選手に有利です。ということでどんな結果が出るか楽しみにしています。

ワールドカップを私の30数年で実際にみたゲーム、印象深いのは、1982年スペイン大会での準決勝、西ドイツ対フランスのゲームです。生涯忘れないでしょう。延長に入ってフランスが2点リードしたのをドイツが逆転したゲームは内容も素晴らしかった。フランスのティガナ、ジュレス、プラティニ、フェルナンドとドイツのルンメニゲ、怪我をされていて最後出てきて同点ゴールを決めた素晴らしいゲーム。その時NHKで解説をしていた。場所はセビア、隣は名アナウンサー、羽佐間アナウンサーです。後ろをベッケンバウアーが通ったら彼が捕まえて私の隣に座らせて解説させたという面白い事もあった。

### <待つ楽しみ>

ワールドカップ、いろんなことがあります。街を歩けば、いろいろあるし、スタジアムに行けば、また日本にはなかったスタジアムの風景、相手の国のサポーター達が見せてくれる。サッカーだけではなく、すごい楽しみがでてくると思う。後、6カ月の間、情報収集をやると楽しくワールドカップ観戦ができるのでそれをしながら開幕日を待つ事を願ってます。

試合会場であう人達に「会社を辞めてきました」「帰ったら仕事を探します」と言う人が大勢いる。それくらいワールドカップに対する情熱は素晴らしい。世界でナンバーワンのスポーツの祭典、4年に1度のワールドカップ、皆さんも私も楽しみにしています。

素晴らしい大会になる事を祈って後、6カ月待ちましょう。ありがとうございました。

(記録者・野坂)

## 2002 FIFAワールドカップ™フリートーク・フェスタ 分科会

### 「まつりとしてのワールドカップ～市民の役割」

2001年12月2日(日) 14:30～16:00

場所：ハーネル仙台

パネラー：竹原 典子氏(埼玉ボランティア)

濱口 竜平氏(みちのくYOSAKOIまつり実行委員)

大泉 大介氏(河北新報記者)

コーディネーター：阿部 清人氏(FMいずみアナウンサー)

**阿部 清人氏**(FMいずみアナウンサー): 皆さんこんにちは、FMいずみの阿部清人でございます。昨年ベガルタ仙台がJ2リーグの最終戦で昇格をきめたことでおもしろい現象がおきております。私が担当している番組も最初はほとんど反応が無かったですけれども最近では30分の番組で私たちのような小さい放送局でも10通をこえるメール・FAXが来るようになりました。非常に家族で応援している人たちが多いなあ、という印象があります。今日も実はこのあと5時から生放送なんですがこの企画が4時までということで、どうしようか、ということで本日は5時から5時半まではいつもの生放送をしまして、これはみなさんぜひ内緒にさせていただければと思います。5時半からは私が生放送で天皇杯のリポートをすることにしております。みていなくても取材に行っている人間がいますのでリポートが出来るんです。

そんなわけで非常にサッカーが面白いな、と感じている私なんです、目の前が泉総合運動場なんです。シェルコム仙台、泉総合運動場がありまして、そこがみなさん御存知の通り来年のワールドカップのキャンプ地、練習場の候補地になっているんですね。非常にきれいにサッカー場が整備されました。シェルコム仙台、最初は80億円以上のお金をかけて一体なんという施設を作ったんだ、みたいに言われましたけれども、その後の使用状況をみましたらほとんど夜も使われているんです。今年の冬場あたりも使用頻度が高かった。ということでやはりこの施設は必要だったんだ、と地域住民は考えるようになりました。そんなふうにとんどもんどもんみんなの意識って変わっていくんですね。さらにワールドカップのキャンプ地、今イタリアじゃないかといわれているんですが、これが決まれば、仙台市泉区の野村、これが全世界に発信される、地元民としても非常に期待をもっています。去年がスマップ、今年がV6でしたですか、シェルコム仙台にきましたはその時には1日1万人が野村を訪れました。若い女の子で道があふれました。歴史上、地球創生以来泉区野村にこんなに人が集まったのははじめてじゃないかと思ったんですが、それを見た時にもっと多くの出店をだしたら良かった、とか。PRコーナーを沿道に作れば良かった、と口惜しかった思いでございます。ワールドカップの時にはちゃんと準備をしてやっていきたいものです。私がコーディネーターをさせていただきます。この後はあまり話しはしません。後はパネラーのみなさんと参加者のみなさんにご意見をいただきたいと思っております。

それでは活動紹介をかねまして竹原さんですが、プロフィールにありますように弟さんがサッカーをしています。自然にサッカーになじんで、1998年のフランス大会ではスタジアムの中と外の両方での観戦を経験しています。浦和レッズのスチュワードには1997年から参加しています。東京の新宿区にお勤めの保健婦さんです。それではお願いします。

### <自己紹介>

**竹原 典子氏** (埼玉ボランティア): みなさん、こんにちは。今日お招きいただきありがとうございます。今ご紹介いただきましたように、私は普段浦和レッズでサポーターをしながらクラブの運営を補助するというボランティアもしております。サポーターの方はまつりという観点からしますと、まず非日常の世界で駒場というスタジアムに一歩足を踏み入れた瞬間から私たちは選手とともに劇場を作り上げる主人公であり、そして補佐役になる。とても楽しい空間を作り上げる、そんな経験を普段しております。これはベガルタにも通じるところがあるのではないかと感じております。後でも出ますが私は全国のボランティアの取材をしておりますその時にベガルタも(取材を)しまして、スタジアムのベガルタ側のスタンドに立ってみて、昔の浦和のような感じて夢や希望があると思いました。

次にボランティアの方なんですけれども、こちらの方の喜びというのは、まさにお客様とのふれあいになります。お客様の方が帰り際にふと「今日はしょうがねえ試合だなあ」などと私たちにニコニコ笑って声をかけて帰ってくださる。そんな試合を私たちが作るお手伝いできた。そんな両面の喜びを感じております。

私の方は浦和レッズの降格というものがひとつの転機になりまして、私たちに何か足りないものがあるのではないかと、思い、さきほど話しましたようにいろんなクラブの運営を助けるボランティアの取材を個人的にはじめまして、その情報をホームページで流しております。そこでベガルタもそうですし、大阪や新潟など様々な所で出会いがございまして、私たちの浦和のように朝から晩までお酒を飲んでサッカーの話をして帰っていく、というそういう楽しみ方だけではなくて、フロンターレのように市民が自分たちのお稽古ごとをサッカー場で発表して、また、その後太鼓を使って応援をする、というような楽しみ方もみまして、こういうのもいいなあ、と思いながら私たちには何が取り入れられるんだろうか、と問いかけながらおとしから去年の途中まで過ごし、去年一年間はおとしの活動を受けて外にでて何が出来るのか、ということを考えてみました。そのひとつとして取材を通して知り合いましたボランティアのリーダー格の人たちとネットでつながろう、ということでメーリングリストを作りましたが、まだ具体的な活動というのはやっておりません。

次にコンフェデレーションズカップ、みなさん御存知だと思いますが、これをワールドカップにぜひ生かしたい、そして素晴らしいワールドカップにしていという思いがございましたので、コンフェデレーションズカップが終わりました後に「総括シンポジウム」というのを発起人の一人として企画させていただきました。また、浦和・埼玉を盛り上げたいという思いがありまして、埼玉スタジアムが10月6日にオープンしましたが、それにあわせまして「ワールド・フットサ

ル・フェスタ」という大会の実行委員長として企画をさせていただきました。

私も何ができるかわからないながら、まわりにあるもので自分ができそうなものに対して今年にはチャレンジしてきたという気がします。これからあと180日、みなさんと一緒に何ができるのか、をかんがえながら過ごしたいと思います。どうぞ、よろしくお願いたします。(拍手)

**阿部 清人氏**：はい、ありがとうございました。続いてはお隣です。河北新報記者の大泉大介さん。今年は宮城県では新世紀宮城国体が開催されたわけなんです、秋にはこの国体、そして第1回全国障害者スポーツ大会の記事を報道されていました、みなさんご覧になっている方が多いと思います。今日は国体の取材を通してスポーツ大会、まつりのあり方についてお話をうかがえればと思います。それでは大泉さんお願いします。

**大泉 大介氏**(河北新報記者)：こんにちは。河北新報の大泉といいます。通常は夕刊の読者は朝刊にくらべて少ないと思いますが、その夕刊の一番最後のページ、朝刊でいえばテレビ欄にあたる場所なんです、その「まち、今」というヴィジュアルを使ってカラー写真が使えるページなんです、ここの取材を担当しております。で正直サッカーの話というのは個人的な関わりはほとんどありません。宮城国体がはじまるまでもずっとこの夕刊の「まち、今」というのを担当していたものですから、サッカーの取材経験、ましてやスポーツの取材の経験もほとんどなかったんですね。で、宮城では5年ぶりの国体の取材に県内の一大イベントということで、うちの新聞社も全精力をあげて、ということでもかなり早くから国体取材班の方に入りましたのが、いわゆるスポーツ取材のきっかけだったんですね。国体を単なる競技イベントではなくて、(つまり)誰が勝った負けたというだけではなくて、地域で開かれるイベントとして一体どうやったら盛り上げていけるのか？国体が終わったあとにどんな国体で得たノウハウなり経験を地域に生かしていけるのか？という視点を取材段階から持って行かなければいけないということで、随分いろんな大学の先生の所、京都とか、滋賀とか、いわゆるスポーツ社会学といわれる分野を研究なさっている先生のところへ行って、国体というものを我々はどうみたらいいのか？ということから実は取材が始まったんです。ご覧になった方がどれくらいいるのかわかりませんが、国体期間中に国体改革についての連載をしました。秋の国体だったんですが、「提言、国体の明日」という扱いは小さくなくて地味だったんですが、競技取材の記事の隅に企画をしました。それはある意味で国体を止めてしまえ、という提言も含んだ話しでした。地元紙としてはこういう企画をやるということは結構勇気のいることで、片や何面も紙面をさいて大々的に報道している中で、国体はある意味おかしいのではないかと、たとえば2百6十数億かけて宮城スタジアムを作ってどうするのか？一方ではそんなことも考えていかなければならない、というようなことに今回は気を使って取材をしたつもりです。

話しは戻りますが、サッカーの話はほとんどわからなくて、大学の先生に国体の見方を聞きに行ったときに、ひとつ大きな視点として全国で盛り上がっているJリーグのサッカーのサポーターの力に対し、日本の中での新たな動きとして目を向けていく必要がある。正直それまでサッカーの試合を生で見たことが無かったのですが、私泉中央に住んでいまして、しかもスタジアムから近いマンションでゴールという声が聞こえるんですね。部屋にいて窓から。それでも見たこ

とはなかったんですけど、今回の取材をきっかけに仙台スタジアムに試合を見に行っただけです。あれだけピッチが近くて、すり鉢状の施設で、屋根があって、歓声がこだまする。あのスタジアムに身を置くと、仙台スタジアムでの試合すごかったよ、と人に言ってしまうんですね。それが次に年配の方をまきこんだり、自分の両親を連れ込んだりする。

実は今回のこの分科会のキーだと思うんですが、一人一人がスポーツなりの自分の感じた魅力を誰かに伝える、というシンプルな積み重ねが知らず知らずのうちに町の力になっている。泉区のみなさんがスタジアムに足を運ぶようになっているというのは、単にスポーツをサッカーを好きになったという以上に地域に対する誇りというか、うちの町には仙台スタジアムがあってベガルタというJ1のチームがあってという誇れるものができている。その原動力は上から降ってきたものではなくて自分が見に行って、人に言ってその人がきてというその繰り返し、循環が地域の力になっている。今、(自分自身)振り返って報道機関として何ができるかという、その小さな情報をメディアに載せ、声を拾っていくこと。選手の今日ゴールを決めた。すごかったろう。という談話だけではなくて、初めて見に来て楽しかったというシンプルな声をメディアとしては大切にしたいと思います。私は青森の支局に3年いて、むこうには「ねぶた」という祭がありまして、極めて共通するものがあるのではないかと、ということも含めて町を元気にしていくしかけをみなさんと一緒に話し合えれば、と思います。(拍手)

**阿部 清人氏**：はい、ありがとうございました。今大泉さんが仙台スタジアム近くのマンションで昼寝しながら、ゴールという声をうるさいなあ、と思って聞いていたのがスタジアムに足を運ぶようになった。情報がありまして今日実はそのゴールが4回流れたそうです。光岡がPKをもらってマルコスが4点目をあげて4対1でベガルタが勝ったそうです。(拍手)今まで仙台スタジアムは大量得点をする苦情が多いという話をきいたことがあります。今日はどうなんでしょうか。パネラーの3人目の方です。お隣は濱口竜平さん、みちのくYOSAKOIまつり、仙台にいる方でしたらほとんどの方がご覧になっているかと思いますが、まったくの市民の手作りで非常に盛り上がりを見せているまつりに参加されています。ご自身もフットサルの活動もされ、イベント会社の経営もしている方です。まつりという観点から今日はさまざまなお話をいただけたと思います。それでは濱口さん活動紹介をお願いします。

**濱口 竜平氏**:(みちのくYOSAKOIまつり実行委員)みなさん、こんにちは、私はYOSAKOIまつりに第1回から参加しています。本当は踊り手として参加しようと思っていましたが、当時まつりをしきっていた大学生と知り合い、彼らと一緒にまつりを作る側も面白そうだと考えて1回目から社会人、という立場でやってきました。仙台でやっている大きなまつり、青葉まつり・七夕・ジャズフェス・YOSAKOIまつりとあるんですが、青葉まつりとか七夕まつりというお金の面でも人の面でも、宮城県とか仙台市の力添えがあるほうなんです。

ジャズフェスとか、YOSAKOIというのはそれがほとんどない状態でずっときていまして、今年(野鳥の会の方がかぞえたわけではないんですが)45万人観客がきていました。全国からは5,100名ほどの踊り手がきています。けれども私を含めて実行委員というのは学生・社会人を合わせて実働は30人に満たない人間で動かしています。そこで今回のワールドカップもど

のくらいの方がくるのか、は未定ですが少なくとも宮城スタジアムであれば5万人近く人が入るわけですから相当な人が来ることは間違いないと思います。また、私が聞いた情報ではキャンプをする場合ひとつの国で選手・関係者合わせて大体300から400くらいの方がくるといいますので、それを考えると結構なおまつりになると思われれます。YOSAKOIまつりではやっている人数に対して観客動員数が多くリスクがあり、それをクリアーしたり失敗したりという経験がありますのでそれをふまえて、ワールドカップに対してやるべきことや想定されることを考えてきました。

また私自身はサッカーは小学校でキャプテン翼をみて始めまして、中学校までやりまして、埼玉に住んでいるときに越谷FCというチームに入ろうとして入団テストを受けた経験もあります。今はフットサルを分科会3のカールさんなどと一緒にやっています。その意味でベガルタや今回のワールドカップには非常に興味があります。少しでも役にたてればいいなあと思いますのでよろしく願いいたします。(拍手)

**阿部 清人氏:** ありがとうございます。濱口さんは埼玉にもいらしたんですね。まずは一通りパネラーのみなさんがどのような活動をしているのか、という話を伺いましてご理解いただけたかと思います。また、今日はパネラーではないんですが仙台市の企画調整課長でキャンプの誘致で非常に忙しくされています細井実さんにもおいでいただいていますのでのちほどお話しを伺いたいと思います。よろしく願いします。

それでは続いてそれぞれ180日に迫ったワールドカップに向けてどんなことを市民参加としてやっていけると思われるか。これはまつりという部分が主眼にはなるのですが、地域での取組、団体での取組、それから個人的な考えについてお話しを伺いたいと思います。それでは竹原さんから。

#### <市民参加で出来ること>

**竹原 典子氏:** この中で開催地またはJAWOCのボランティアをされる方はいらっしゃるでしょうか。私も埼玉の方でJAWOCのボランティアをやることにしており、その活動を通じて何ができるか、ということに集中したいと思います。普段(浦和の)ボランティアをしていて、ボランティアが元気なくつまらなそうにしているとお客様もつまらない、と思いますので本番当日元気に迎えたいと思っています。JAWOCの方でも技術面とか言葉とか(研修を通じて)お客様とふれあうための手段を与えてくれているので、それを含めたいろいろな交流をしていきたいと思っています。具体的に言いますと、JAWOCのボランティアとJリーグのボランティアをしている人たちが交流を持つ機会を大会の前までに持ちたいと思います。私もはじめて参加した時とても不安でしたがチーフのボランティアがいると、困ったときでも話しがきけますし、そうなると自分に余裕もできて笑顔も自然にだせます。

また、見るほうではフェイス・ペインティングなどを98年のフランス大会に続きやってみたいと思っています。あれは日本人にとってとてもいいものだと思います。日本人は話すのが私も含めて苦手ということで、実は(フランス大会の)アルゼンチン・日本戦の時に中に入れなくて頭にきてしまいアルゼンチンのチームのファンだということもあって、日本人ながらアルゼンチ

ンのペイントをしてしまったんです。するとアルゼンチンの方がものすごく話しかけてくれました。ぜひ視覚的にペインティングなどをやってみて、外国の方とふれあうチャンスをもちたいと思っています。

**阿部 清人氏：**竹原さん、今の話してJリーグの各チームのボランティアの交流をしたいということですか。

**竹原 典子氏：**はい、Jリーグの各チームのネットワークをもっていて、それを基盤にしながら今まで関東地域だけで交流会を2・3回やってみました。更にそれを基盤にして今度はJリーグのボランティアと今回はじめて参加するボランティアの方たちが、うまく交流できる場面を作っていきたいと思っています。

**阿部 清人氏：**今は埼玉県のアワOCのボランティアですね。とすると浦和の活動をしているボランティアとダブル部分というのはどれくらいありそうですか。

**竹原 典子氏：**そうですね、浦和のボランティアの枠が確か150くらいだったと思います。全体が1,500から2,000人ということでしたので、約1割でしょうか。

**阿部 清人氏：**そうするとアワOCのボランティアを通じて浦和のボランティアの新しい広がりができる可能性があるということですね。

**竹原 典子氏：**もちろんそうだと思います。埼玉スタジアムというところで活動がはじまり、アワOCの方たちと一緒にやっています。

**阿部 清人氏：**そうした活動を通じて竹原さんの場合は更に輪を広げたいということですね

**竹原 典子氏：**そうですね、今回フットサルの大会なども実は私の参加しておりますJリーグのチームのチーフボランティアの方々が運営をやりまして、更にサッカー協会とか、地元のスーパーリーグの方たちが善意で笛をふいていただき、非常にボランティアの人の力が10年で育ってきた、という実感を得ることができました。

**阿部 清人氏：**今の竹原さんのお話を伺いますと、Jリーグの盛り上げがうまくワールドカップに結びついていくような、その兆候がみえていますね。ありがとうございました。

ご自身の活動を更に広げていきたい、伸ばしていきたいというワールドカップに向けてのいきごみをお話しいただきました。

続いては大泉さん、国体をスポーツ社会学からまずは検証していったって、今回競技もボランティアの姿もずっと追いついていったわけですがけれども、河北新報の「国体の検証」は仙台大学の先生の提言があったりして私も関心をもって読ませていただきました。その経験を通して来年のワールドカップに向けて、ご提言をお願いいたします。

**大泉 大介氏：**国体の取材をするときに大学の先生などから一言言われたのは、今まで長い間スポーツというのは「するもの」だった。その楽しみが何よりも尊重されてきたし、それ以外はあまり認められていなかった。ということでした。多分、私が仙台スタジアムの一番近いマンションに住んでいながら試合を見なかったのは、スポーツは自分でしないとつまらない、という思いがずっとあったと思います。ピッチに立ちサッカーボールをけることが出来れば楽しいでしょうが、見に行ってもつまらないだろう、という自分なりの偏見があったんですね。今の世の中では

スポーツがどんどん広がってきて「見るスポーツ」というものが非常に大きなウェイトをしめていて、ベガルタの2万人近いサポーターの人たちの中で実際サッカーボールをけたことのない人、というのも相当数いるのではないかと思います。それなのにマルコスが遅いとか、山田もつと前にでろ、ということを行っている。多分それは「見るスポーツ」というものが市民権を得る、そういう時代になってきているんだと思います。

ひとつ事例を挙げれば普及率が伸びていないと問題になっているBS-i。衛星放送で民放の各局が放送を始めたんですが、あそこでスポーツをみるとなると野球でいえば、次ピッチャーが何を投げるかというのを画面をみながらリモコン操作をして、次は自分ならストレートを投げるかと予測するんですね。そのデータをまとめて試合終了後に電話回線を使って送れる。それをTV局が集計して全国の視聴者の中でどこの誰が予測で1位になったか、ということを発表する。つまり今までは野球を一方的にみていたお父さんたちが、参加して遊べるようになっている。で、僕が言いたかったのはスポーツが「する」から「見る」、更にサポーターからボランティアの流れの中で「支える」というものにシフトしてきているのではないかとということ、今回の国体取材でも非常に強く感じました。そこで共通しているのは、「する」にしても「見る」にしても「支える」にしても、そこに自分がどれだけ関わっているか、ということが大事で、TVを「見る」にしてもただ受身ではなくて、予測してみたり、ラジオを聴くにしても、自分でFAXを送ったりすることがその人にとって楽しみを生んでいる。僕がマンションに住んでいてゴールという声が迷惑だったとか、試合の時はまわりが不法駐車一杯になってしまう、あれは地域、特にサッカーに興味のない人にとってはかなりの迷惑イベント、でも、それが自分が実際見に行ったり、何かひとつ関わりを持ったことによって目線が180度変わってしまう。自分がスタジアムに近い住人だということをたいした家賃も払っていないのに誇れてしまう。

ワールドカップに関していえば、同じことがいえると思います。交通渋滞するのではないか、フリーガンがくるのではないか、テロがあったらどうするんだ、そういう見方からすれば迷惑なイベント。やらないことが一番いいという発想にもなる。でも、そうではない、ということここにいる人たちは感じていると思います。そう思っていることを一人一人が身近な人に話しをするということが大きな輪になって広がっていく。望むべくは180日ある中で、ベガルタの試合があるならば一緒に見に行き、そしてワールドカップはもっとすごい、チケットはとれないけれど何か面白いことをしたいね、ということにつながっていくと思う。

**阿部 清人氏：**スポーツを「する」ところから「見る」更には「支える」ということでどんどん進化している、ということですね。「スポーツ進化論」ともいえるかも知れません。竹原さん、今のお話しいかがですか。

**竹原 典子氏：**まさにそうです。私はサポーターをやっていたのに「支える」ほうに行ってしまった。ひとつの例だと思います。

**阿部 清人氏：**「支える」という活動をしている、ということでもまさに感じるところがあると思います。それではYOSAKOIの濱竜さん、今日は細井課長にも聞いてみたいことがある、ということですが含めてお願いいたします。

**濱口 竜平氏:** 今の清泉さんの話をうけてなんですが、自分もサッカーをやっている非常に大好きでしたが、ドーハの悲劇と、岡田監督がカズをつれていかなかったとき、あのふたつの事件で僕の中ではサッカーが終わってしまいました。それは自分はサッカーに参加していなかったけれども清泉さんが言ったように、自分が選手に感情移入をしているのが楽しかった。自分がピッチにいて、ドーハにいて、フランスにいて状態だったんですが、好きな選手がいなくなるということでファンを止めてしまっていました。今ベガルタがすごく人気があるというのは、市民の身近なところに選手が生活をしている、その地域で一緒に暮らしている仲間という意識で盛り上がり生まれてくる、全国にチームが増えてくるということでは、そうした(地域との密着が)ことが大切だと思います。

実は竹原さんや清泉さんがお話しされた大きな部分に対して、具体的な提案をいくつかもってきましたのでみなさんで考えて欲しいと思います。まず、今回ワールドカップがくることになって私の思うコンセプトは「宮城を伝える」ことであって、その中で「うまい宮城・きれいな宮城・すごい宮城」という3つのテーマを考えました。まず「うまい宮城」ですが、宮城県発祥といわれている「牛タン・冷やし中華・回転寿司」を利用したイベントを企画して、選手にも他県からきたお客様にも「宮城県の食べ物」を伝える。「きれいな宮城」というのは、今回YOSAKOI祭でもやったんですが、さきほど話したように祭に約45万人のお客様が来ました。でそのゴミを当日40名ほどのボランティアで分別をやりました。どの程度やったかという9種類のゴミの分別ボックスを作りまして、プラスチック・紙・割り箸・生ゴミ・水分・ビンカン・ペットボトル・吸殻そしてその他の燃えるゴミにすべてのゴミを分けました。それは非常に大変なことで、やる際に反対もされました。しかし、当日いろんなボランティアの方々に協力していただいたことで、去年までよりもむしろ回収が早く終わり、ゴミ袋の数も減ったので経費も浮いたんです。そのノウハウをワールドカップでいかして「きれいな宮城県」をアピールできればと思います。「すごい宮城」というのは、仙台にあるYOSAKOI・ジャズフェス・七夕・青葉まつりなどの市民参加型のおまつりを通じて宮城県を見せたり、交流をしたりする。そうすることで、各まつりの実行委員の横のつながりも生まれ、来年以降の活動にもいい影響が出てくると思います。

あとキャンプ地の誘致に関しては、大分県の中津江村という人口1,400人しかいない村で、カメルーンの誘致に成功しまして、そうした状況を見るとキャンプ地の誘致に際しては金銭的な負担というよりも、あたたかいもてなしをアピールしたり、さきほどお話しした「うまい・きれいな・すごい」というところはお金をさほどかけなくても実施できるので来る側にとっても参加する側にとってもいいのではないかと考えていました。

**阿部 清人氏:** はい、ありがとうございます。アイデアマンである濱口さん、ということで非常に具体的なお話で、みなさんイメージし易かったのではないかと思います。まだYOSAKOIの実行委員会としては、来年のワールドカップでこんなことをやろうよ、という計画はないんですか。

**濱口 竜平氏:** 特に実行委員はまつりのない期間は月に1回くらい集まって話し合いをしている

んですが、YOSAKOI以外のイベントで何かやろうというのはほとんど無いですね。というのはたぶんYOSAKOIで手一杯なんです。実質20～30人のメンバーでやっていて、非常にきつい。例をだしていうと、まつりの開催10日前から開始までメインでやっている学生はほとんど毎日徹夜しています。ですから終わったときに「やった」という達成感はあるんですが、異様な疲れがあって活動を止める人が多いんです。したがって、中々他のことを考えるのが難しい状況なのです。

**阿部 清人氏：**それが現実ということですね。何月ですかYOSAKOIは。

**濱口 竜平氏：**来年は10月にやります。

**阿部 清人氏：**そうすると6月という時期はまだ体制が出来ていないかも知れませんが、各団体というのはずっと活動しているわけですから、声をかければ集まることは出来るんですね。

**濱口 竜平氏：**そうですね。実行委員自体が何かをやらなくても、チームの人に声をかけることは出来ます。ワールドカップの時に踊ってくれとか、ゴミのボランティアをして欲しい、とかに對しては割りと集まると思います。

**阿部 清人氏：**そうしたところにまだまだ潜在的な力が眠っているんですね。

それでは仙台市企画調整課長細井さん、マイクを向けてよろしいでしょうか。いろいろと今まで聞かれた中で何かあればよろしくお願ひいたします。

**細井 実氏：**(仙台市企画調整課長)

まずキャンプ誘致を何故やっているのか、という大きな目的は、たとえば今やっているイタリアの誘致活動について、活動をすることで既に東京から300KM北にある町ということでイタリアの新聞に出ている。アメリカも来たいと思った町。そういう情報を発信するということが最も大きな価値ではないかと思ひます。また、それに対し今後どう市民が楽しんでかかわっていいのか、ということが大切だと思ひます。キャンプ地の誘致については2つの原則をもっていて、ひとつは透明性を確保する、ということです。市民の理解が得られない金の使い方はしないということですね。もうひとつはハード面整備においても特別な負担はしないということです。今後も市民のみなさんに協力いただきながら実現していきたいと思ひますのでねよろしくお願ひします。

**阿部 清人氏：**ありがとうございます。残り時間もあとわずかとなりました。

**大泉 大介氏：**いままで聞いてきてひとつ大事なことがあるなあ、と思ひしたのは宮城国体の時にあれだけのボランティアを集めたわけですね。取材を通じて感じたのはそのボランティアやった人たちが国体を一番楽しんだではないかと思ひます。特に障害者スポーツ大会の時などはチャレンジパートナーといって、学生の人たちが選手団について来てから帰るまで日常のお世話をしていたんですが、その人たちに取材すると充実感、満足感があったという。そこで課題なのは宮城県は国体が終わった後にあのボランティアの人たちの充実感なり、もっとやってみたいという気持ちの受け皿を何も用意していないんです。やはりあの力を、次にワールドカップがあるのであればワールドカップに、まつりがあるのであればまつりに、というようにコーディネートするというのが欠けていたし、もったいない。自分からワールドカップに手をあげた人はまだいい

方で、やり場のないやる気、という一番もったいない状態が今宮城県にはあるんじゃないか。もうひとつ考えておかなければいけないのは、多分ワールドカップに関わった人たちもいろいろな充足感、満足感を得て、終わったときにまた次のステップが用意されていない、ということが繰り返される可能性がある。ワールドカップが終わったあとにその力をベガルタになのか、いや地域のいろんなスポーツになのか、次のステップを考えておく必要がある。それは個々人だけではなくて行政なりが考えておかなければいけない、と感じました。

次に「見たい人・支えたい人・やりたい人」と価値観がみんな多様化してきている。みんなの欲求が多様化してきているときに、それを統合しようとしてまとまらなくなる。個の関心が多様化する一方でそれをまとめようと思った時にまとめられない。そこにジレンマが生まれる。ひとつのルールとして多様化は認めようという共通ルールがないと、もったいない対立が生まれてしまう。多様なものを認め合う「寛容」というのが必要なことだと思います。

**竹原 典子氏：**それはすごく大切だと思っています。埼玉にはイングランドが来ます、私はそれをすごく楽しみにしていて、それは普段私たちがどれだけサッカーに対してまたは外国の人に対して「寛容」であり続けられるか、というところを試される機会じゃないかと思っているからです。私自信がフランスにいてチケットの事件に巻き込まれたときに、私にはきちんとして判断力がなかった、ということで自分の方がくやしく思いました。

また県の方にも受け皿を用意していただいて、それを逃さずにみなさんには冒険していただきたいんです。まつりというのは私は冒険だと思っていまして、参加してくる冒険者を支えるとともに自分が冒険者になることも出来る。ぜひ何かひとつ参加してみてください。

**阿部 清人氏：**イベントというのは冒険だと、さまざまな出会いがあったりもちろんリスクがあったりする。ということですね。本日はパネラーのみなさんにそれぞれの立場でご意見をいただきました。ワールドカップはもちろん、その後まで見据えて、ここに参加されたみなさんで楽しみ、そして盛り上げていきたいと思っています。長時間にわたりみなさん、ありがとうございました。

(文責：泉田)

## 2002FIFA ワールドカップ™ フリートーク・フェスタ 分科会

### 「スポーツとしてのワールドカップ～サッカーの楽しさ」

2001年12月2日(日) 14:30～16:00

場所：ハーネル仙台

パネラー：松本 育夫氏(サッカー解説者)

下田 恒幸氏(仙台放送アナウンサー)

鈴木 淳氏(全日本ユースコーチ・元ブランメル仙台)

コーディネーター：竹鼻 純氏(ミヤギテレビアナウンサー)

**竹鼻 純氏**(ミヤギテレビアナウンサー)：皆さんこんにちは、ミヤギテレビの竹鼻です。皆さんどうぞ前の方へお越し下さい。

この分科会では、大会がどんな物になるか、戦力分析も含めて、かなりオタクに入ったものにしたいです。私も10年前、Jリーグが開かれる前はオタクの部類にいたが、開幕後、素晴らしい人が沢山現れて自分もたいしたことないなあと思いますが、コーディネーターの立場から意見を言ってもいいという事なので、パネリストと共に楽しく会を進めていきたいと思っています。

#### <今までのベストゲーム>

パネリストの皆さんに、「今までのベストゲームはこれだ、その理由」を述べて、自己紹介をして頂きたいと思います。松本さんには先ほどお話頂いたので、手前の下田アナウンサー、いつも「シモ」と呼んでいるのですが(下田氏の「シモ」でいいよの声)、シモは、私以上のサッカーオタクで、ブラジルに住んでいたこともあるのでですね。スポーツ中継をやる中で、サッカー以外はやりたくないというくらいサッカーが大好きですね。(笑い)サッカー中継ではおなじみです。では、シモから話して下さい。

**下田 恒幸氏**(シモ)(仙台放送アナウンサー)：1976年から1980年までブラジルに住んでいました。その関係上、ベストゲームは1978年のアルゼンチン対オランダの決勝戦です。「汚いなあ、この球場」と思いました。延長になってケンペスが点を取って3対1で勝ったのですが、点が入るたびに紙ふぶきがすごかった。ピッチの上に紙ふぶきが絨毯のようになって、その上で試合をしているのを見てすごいと思った。自分の中で原点的な試合です。

**竹鼻**：ありがとうございます、続いて鈴木淳さん、いつも「ジュン」と呼んでます(鈴木氏の「ジュンでいいよ」の声)。ジュンをご存知のように宮城県の大塚町の出身で、向山高校から筑波大学に行って、フジタ工業でサッカーをやって、その間、松本育夫さんが監督の1979年ワールドユース、当時は20歳未満の大会で、当時マラドーナとディアスでアルゼンチンが優勝した日本の大会で、高3トリオ、名取さん、風間さんと共に活躍しました。その後、日本で開かれたユニバーシアードでベスト4に入った時の日本代表のキャプテンです。今は、15才以下の全日本代表のコーチです。

**鈴木 淳氏**(ジュン)(全日本ユースコーチ・元ブランメル仙台)：鈴木です。日本サッカー協会に所属してません。話の前に、松本育夫さんですが、やさしい顔をしてますが、昔は非常に厳しくて(笑い)、練習が辛かった思い出があります。ベストゲームですが、僕がナマでワールドカップの試合を見たのは、1994年のアメリカ大会です。その決勝戦のブラジル対イタリアのゲーム、ここでイタリアのディフェンスの戦術的なすごさを初めて知った。ディフェンスライン、ミッドフィルダーライン、オフenseラインの3つのラインがきれいに作り上げられていた。ブラジルが優勝したが、ロマーリオ等の傑出した選手を巧みなディフェンスラインが押さえたことが、印象に残っています。

**竹鼻:** そういう見方もありますね。では松本さん。

**松本 育夫氏**(サッカー解説者): ゲームよりもワールドカップに対する印象をいうと、サッカーのユニフォームがこんなにきれいだと感じた試合がある。1966年のイングランドと西ドイツの決勝戦です。ピッチが緑、イングランドが赤-白-赤のユニフォーム、西ドイツが、白-黒-白のユニフォーム。これが大変調和して、サッカーってこんなにもユニフォームが映えるスポーツなのかということが、今でも離れないです。色のはっきりしたユニフォームがピッチに合うなと思います。

1982年、NHKの解説をしていて、ユーゴスラビアとスペインのゲームをマドリードから生放送しようとした。アナウンサーの羽佐間さんから、「サッカーはスペインの国技だからその雰囲気をも日本に伝えよう」と打ち合わせをした。ただ、方法は教わらなかった。

試合が始まった瞬間、「松本さん、聞こえますか」とどなってきた。10万のスタジアムの9割、9万人のスペインの観客がいっせいに旗を振って応援している。ヘッドフォンの声が聞こえなかったので「聞こえません」と答えたところ、試合が終わって叱られた。「聞こえないのに答えているのは何事だ。黙っていれば、アナウンサーが次の言葉を用意していた。『解説者が聞こえないくらいのこの雰囲気です』といった。」と言われた。このように思い出は尽きません。

1986年の大会、ウルグアイとアルゼンチンの試合のハーフタイムにおなかをこわした。NHKのアナウンサーは、駆け出しの山本さん。夕立がきて、35、6度あった気温が一気に冷えてきた。トイレに駆け込んだら、ドアが無かったし、紙も無かった。このようにいろんな思い出が尽きないです。

**竹鼻:** ありがとうございます。松本育夫さんは、1966年の大会をナマで見たという、ワールドカップを見つけてきた方では有数の方です。私は記録映画で見た記憶があります。

私の印象に残った大会は、松本さんが講演会で言った事と同じで、1982年の大会です。当時、ブラジルは、ジーコ、ファルカン、ソクラテス等の黄金のカルテットがいた。中盤は華麗で、なぜこれで優勝できないかと思った。ブラジル人もそうだと思う。

同じように中盤が華麗なフランス。プラティニ、ティガナ、ジレス、フェルナンデスの中盤がいるフランスと西ドイツの準決勝が印象に残っています。1対1で延長戦になって先にフランスが2点とって、3対1にした。これでフランスが勝ったと思った。私もこの中盤を持つフランスを熱狂的に応援していた。その後、途中出場のルンメニゲが1点とって、さらにフィッシャーが同点ゴールを入れて、3対3になってPKになりました。

ドイツ、シティーリケが最初に外した。大学生のインテリの彼がうずくまって泣き出した。ラテン系ならともかく、ドイツ人があんな風になってしまうのがワールドカップなのかと強く印象に残っている。彼が泣いて立ちあがれない姿がTVを通して写っている。その後、逆転で西ドイツが決勝に進みました。

この準決勝で、うまいチームが必ずしも勝ち残らないのだなと思った。それと、ドイツの勝負に対する執念、絶対に負けないぞという気持ちはなんてすごいんだろう、延長で2点もリードされてそこに追いついて、しかもPKでも先に外しておいてまた入れなおして勝つ。シューマッハというゲルマン魂の権化のようなGKがいた。イタリアもロッシと言うセンターフォワードのカウンターで優勝した。ワールドカップに対する各国の思いとすごさを印象づけられた。

### <抽選結果の印象>

では、来年のワールドカップがどうなるかと言う話をしてみたいです。皆さんも、手元にある資料を参考にしてください。松本さん、この組み合わせ全体を見て、どのような印象を持たれましたか。

**松本:** リーグ戦は、F組を除くとリーグ戦はバランスよく行ったのだらうと思います。勝ちぬく段階になるとヨーロッパと南米のチームが韓国と日本に分かれたと思います。

**鈴木(ジュン):** F組は大変、日本はいい組み合わせ、ブラジルは楽かなと思います。全体的にはバランスが取れていると思う。

**下田(シモ):** 言う事がなくなりました。(笑い)日本がどの組に入っても簡単には勝てない相手ばかりだと思

う。手ごわい相手、だからこそワールドカップかなと思います。

**竹鼻:** その通りだと思う。でもその中で比較的、日本はいいかなと思いました。開催地の宮城としては、率直な所、もう少しいい試合がきて欲しかったです。(笑い) エクアドルやメキシコなのでスペイン語の勉強が必要かな、JAWOC はスペイン語のボランティアを集めなければならないだろうなと思います。

### <F組について>

「死のグループ」の話ですが、F組はすごいと私も思った。アルゼンチン、イングランド、ナイジェリア、スウェーデンです。ジュン、どう思いますか。

**鈴木(ジュン):** 現時点では、アルゼンチンは、フランスと並んで、世界でも2強。ここに、身体能力の高いナイジェリア、劇的にきたイングランド、もともと地力のあるスウェーデンですが、アルゼンチンは抜きんできていると思う。得点能力が高い、バティストュータ、クレスポ、クラウディオ・ロペス、MFのアイマール、U-20の大会で活躍したサビオラなどのタレントが前線にいる。次にイングランドが来るのではないかと思う。攻撃の部分でベッカムと言う切り札を持っている。ナイジェリア、スウェーデンがそれにどのように立ち向かうかなと思います。

**下田(シモ):** この組に入った国は損をしたと思う。

**竹鼻:** スウェーデンは大会に行くのを止めるのではないですか。(笑い)

**下田(シモ):** スウェーデンも歯が立たない訳ではないでしょう。むしろ、残りの3カ国は、スウェーデンからどのような勝ち方をするか、負けたら意味が無い訳です。

アルゼンチンは優勝を狙ってきているだろうから、リーグ戦でピークがくるかどうか興味深いです。勢い先行のナイジェリア辺りが1位で来るのでは、という穴的な読みです(笑い)。裏予想です。そうすると、このグループの最後の試合、スウェーデン対アルゼンチンが宮城であるのは面白いです。ナイジェリア対イングランドは、大阪ですね。暑いところなのでイングランドは不利です、以上、一般視聴者の感想でした。

**竹鼻:** ナイジェリア対イングランド戦が大阪であるのは、私も引かかっています。大阪は10会場の中で1番暑い所だと思います。しかも、3試合目がナイジェリアということできついのではないかと思います。

アルゼンチンはやはり強いでしょう。松本さんが基調講演で言われたように、力を押さえたいリーグ戦なのに、それができないアルゼンチンは困ったなと思っています。バティストュータは出ないのではないかと、クレスポ、クラウディオ・ロペスの方がフィットしているのではないかと、最初からバティストュータは連れて行かないのではと思う。リケルメも入らないのではと思うくらい選手層が抜群です。

ナイジェリアはオコチャを中心とした信じられないような身体能力が発揮できるのではないかと思います。南米でもヨーロッパでもないニュートラルな地域での大会なので、ナイジェリアが力を発揮しやすい環境ではないかと思っています。アフリカが優勝、準優勝があるとすれば、日韓の大会ではないか、その中でも、ナイジェリアが来るのでは。セネガルも強いが初出場なのでナイジェリアではないでしょうか。

イングランドは選手が若いので2006年に強いのではないかと。ただ、オーウェンは、世界で1、2のストライカーなので、彼を止められない時はイングランドかも知れない。ベッカムはセットプレー以外では力を発揮できないので、私は、アルゼンチン、ナイジェリアとしたい。

**松本:** 試合会場をみると、適しているのがナイジェリア、鹿島-神戸-大阪、暑い所3カ所です。アルゼンチンは、鹿島-札幌-宮城、気候にあまり左右されません。最初から、殴り合いですね。

守備が大切、うまいのはアルゼンチンです、ゾーンディフェンスの予測がいい。次に組織のイングランドの守備、心配なのはナイジェリア、どれをみてもプラスマイナスがある。

そこで、ポイントはストライカーです。オーウェンのイングランド、バティストュータかクレスポのアルゼンチン、彼らが貴重な一点をあげそうな気がする。そうすると、新聞の見出しにはエースの名前が出てきます。

**鈴木(ジュン):** U-17の試合を見たが、アフリカは個人のイメージが強いが、ナイジェリアは組織のプレーができていた。フル代表となると別だが、兆しはあると思う。

**竹鼻:**なんとなく、専門家2人は、アルゼンチン、イングランド。我々ファン(竹鼻、下田)は、ナイジェリアが行くのではとの期待も含めてます。(笑い)

これほど完成度の高いチームが多いと、セットプレーで、決め手を持った所が強いのではないかと、ベッカムとか、イタリアのトッティ、ロベルト・カルロスなど、フリーキックのうまい選手のいる所などどうでしょう。

**松本:**それプラス、アルゼンチンのフリーキックの意外性、空中戦ではなくグラウンダーのパスのセットプレーがくる。

空中戦だとイングランドとスウェーデン、本当の面白さを持ったのはアルゼンチンではないでしょうか。

**鈴木(ジュン):**前回のフランス大会でペーロンから、サネッティへの壁の裏に速いパスを出したキック、対イングランド戦だったと思うが、今回もリスタートでのプレイは面白いだろう。ストライカーのいるチームは強いと思う。並みのストライカーでは得点できないサッカーになってきました。

### <日本のいるH組について>

**竹鼻:**話は尽きませんが、次に、日本についてはどうでしょう。H組について話を聞きましょう。最初素人から。

**下田(シモ):**ドローを見て最初に「結構、ラッキー」と思った。が時間がたつと、他の3カ国も「ラッキー」と思っているだろう、そういう組ではないか。顔の見えないチームだ。マニアはともかく、すぐ名前が浮かぶスーパースター級の選手がいない。

怯えずに戦える日本は、間違っても3連勝して宮城に来るかもしれない。チュニジアもロシアも空中戦に強いとか、これから先、奥の手は見せないだろうからそこら辺がカギかなと思う。最終的には1位で通過、ベルギーが2位。フランス大会の韓国戦の感想からもそう思う。

**竹鼻:**素人が続きます。私は、ロシアが1位、2位が日本と願望も込めて思います。

ロシアはテレビで見たが強いと思う。ワントップで、トップ下にチトフという、左サイド、右サイドに流れてプレーする背の高い選手がいる。攻撃的なボランチ、モストボイがスケールの大きいプレーをする。ゲームメーカー的です。ソビエト時代のシステムチックなサッカーから、創造性が加わって強いのではないかと。右サイドのカリピンとモストボイがいて、縦のラインから点を取りに来ると思う。

日本は初戦のベルギー戦がカギだと思う。もし勝てれば、残り1敗1分けでも残るだろう。有名なムテンザは押さえられるだろう(笑い)。大きい人のヘディングが阻止できるかどうか、チュニジアはブラック系ではなく、アラブ系なので、サウジとやっている日本はわかるかなと思います。

**鈴木(ジュン):**私は、ロシアが1位、日本が2位という予想です。ロシアは、強い国のいた予選リーグで7勝2分け1敗。バランスが取れている。日本は、竹鼻さんが言うようにベルギー戦がカギになると。チュニジアは完成度がまだなのではないかと思う。

**松本:**チュニジアではなく中南米のチームがくると思っていた。

ベルギーは1986年メキシコ大会のとき、シーフォーというイタリアから移籍した選手がいたが、当時よりも11人のレベルは上がっているのではないかと思う。ポジションチェンジをやらないので、日本の前線と中盤の7人が功を奏するだろう。五分五分だが、地元なので勝ちたい。

ロシアは危険。ソ連時代は選手が国のためにサッカーをしていた。予選は頑張る、決勝リーグになると、亡命を恐れて選手を宿舎から出さなかったのでメンタルが落ちていた。今は社会体制が変わって、選手がヨーロッパリーグに行ける時代になった。鍛えられたグラウンダーパス、長いパス、活動量、組織力は侮りがたいです。日本は苦しい戦いを強いられるだろう。長いパスとスピードに弱い日本。竹鼻さんが言った中盤の4人に日本がやりにくいと思います。ロシアがヨーロッパで10試合やって6失点というのは本物だろう、これがひとつ。

チュニジアは、守備が主になっている。攻撃は他チームほど魅力がない、だから勝てるだろう。次の組み合わせの事を考えると、1位にならないとブラジルとぶつかる。どうしても1位で通過して、C組2位で来るであろうトルコとやらせたい。ここは、私の願望で、日本が1位になってくれ、2位はロシアを描いています。

**竹鼻**:なるほど。だいたい、ロシア、日本あるいは日本、ロシアのようです。

### <日本はどう戦うか>

日本はどう戦うのか、ベストメンバーも含めて。トルシエ批判になるから日本協会はだめなのかな？(笑い)

**鈴木(ジュン)**:ぼくはだめですね。(笑い)マジだめなんですよ。

代表チームに関してはコメントはしないことになってます。といってもこういう場なので、、選手に戦術が浸透してきています。この完成度をワールドカップまでに更に上げていく必要があります。情報は分析できているがこれをどうチームに生かすかがこれからの課題でしょう。(笑い)

**竹鼻**:わかりました(笑い)。松本さん、講演の中で「高い位置からプレスをかけて」という話がありましたが、日本の戦い方で何か付け加える事はありますか。

**松本**:システムは変わらないでしょう。3-5-2 にするか、3-6-1 を取るか、ゲームの中で流れを変えるかも知れない。トルシエはこれまでもトライしている。ただ、エスパルスの三都主(サントス・元アレックス)をどうするか、選ぶかどうかポイント、選ぶのだったらどういう使い方をするのかな、それによって中盤の構成が変わってきます。

三都主は左サイド、途中から使うとするとトップかな。ぼくの描いている2トップは高原、柳沢だろう、頑張り屋の鈴木をどうするか、中山を入れるかどうか。三都主はキープ力、スピードがある、フリーキックの手もある。そうすると、左は小野、俊輔(中村)がいて難しい。トルシエのやりたいサッカーを打ち出さないと選手の理解が得られない。トルシエはキャプテンを毎試合替える、新しい選手を入れる。

三都主の能力の理解が日本にとってポイントになる。私は入れたほうが面白いと思う。3 バックは、松田、森岡、中田だが、守備を考えると服部の方がいいかもしれない。

中盤はボランチで、稲本、戸田、また調子のよくない中田をボランチにして、ゲーム作りを小野にして、左に三都主かも知れない。うれしい悲鳴なのか、困ったことなのか。前線、右はスピードがある波戸、左はどうするのか。中田がボランチになったら、森島の前線への飛び出しが有効、日本のサッカーのリズムが変わってくる。監督の考えでどうなるでしょうか。

**下田(シモ)**:ファンの立場から、カズを復帰させて欲しい(笑い)。可能性は薄い僕達の世代はそう思っているでしょう。ゴンとカズがまた入らないかなあと思います。

私も、キーマンは森島ではないかと思う。イタリア戦でも一番効いていた。2トップにすると、中田をボランチに下げても、稲本と組んでも戸田と組んでもチームのバランスは変わるだろう。トリプルボランチにして、中田の両側に稲本と戸田を並べると、1トップになる。1トップの森島だと点を取るのはいんどいかな、2トップの間に森島が入るほうが、底力のあるチームとやる時はいいのかなと、イタリア戦を見ながら素人目に思いました。

トルシエがスタメンを組んで、誰を切り札に使うのか注目してます。アレックス(三都主)は左サイドだが、トルシエは左にゲームメーカー的な選手を置いてきた、そうでなければ、ディフェンシブ。彼をどのように使うのかなと思う。右の広山も胆がすわっているような選手、海外に行っている選手の中では最もコンスタントに試合に出ている選手です。彼をどうやって使うのか注目してます。

**松本**:ワールドカップの登録メンバーは22人ですから、今のような話も出てくると思う。実際に試合に出るのは15、6人。一つにまとめるために、残りの選手の役割をはっきりさせた方がいいだろう。

**竹鼻**:私の希望する代表メンバーは、ベルギーと、ロシアとは変えた方がいいだろう。

ベルギー戦は、真ん中は、宮本恒。高い位置でラインコントロールをする。

ロシア戦では、左は小野、俊輔、三都主ではまずい。ロシアは右サイドが基点なので、中田を左サイドのセンターバックにするなら、ウイングバックに服部、右を攻撃的にして広山を持ってくる。ベルギー戦は普通でいいが、対相手と考えるといいかなと思う。くるくる変えるのはいけないだろうが、ファンの立場から言った。

### <ブラジルについて>

ジュンがブラジルには留学していたりしてかなり詳しいので、不調なブラジルが、そこから脱することができるかどうか聞きたい。

**鈴木(ジュン)**:すべてが問題です。(笑い)タレントは豊富だが、タレントの育成はやってない。

今のサッカーが変化しているのに選手が適応してないと思う。指導者が勉強してない。ブラジルが一番と思っていて外に出て勉強しない。もろもろの問題が出てきています。

監督が3人替わった。ルッシェンブルゴを解任したが次がいなかった。仕方なくレオンにしたが彼もだめで、今はフェリペ、彼はグレミオなどクラブで経験があるが代表チームは初めてです。3-5-2の新しいシステムにチャレンジしているので、新しいサッカーが少しづつ見えてきたのかなと思います。ロマーリオは調子がいいが代表復帰は厳しい。ロナウドは復帰するだろう。

**下田(シモ)**:つらいです。エクアドルなどに負けるなよと言いたい。今、世界最強のアルゼンチンも1994年、オーストラリアに敗れたりしているので、ここで襟を正して2010年に強いのではないかと。

ブラジルも人じゃないかと思わせたのは、オリンピックにおける日本じゃないかと思う。人材はあるので、まとめていくのを注目しています。

**竹鼻**:エジウソン、ルイゾンでの2トップでいいのかと思います。

**下田(シモ)**:ロマーリオの名前が今でも出る。コンフェデにきたブラジルだったら、トゥットとエメルソンの方がよほどいいのではと思ったりする。眠っている才能を発掘して生かして欲しい。

**竹鼻**:ペレの時代からブラジルを知り尽くしている松本さん、本大会は大丈夫ですか。

**松本**:鈴木君が話したように、指導者です。指導者のシステムがないから、皆自分の体験で物をいう。

Jリーグにきて失敗するのはブラジル人です。指導者として、ブラジルの指導者はBクラスです。タレントの組み合わせ次第でチームができる。11人でする理念とポリシーが必要だが、ジュピロを経験したこの人には少ししんどいかなと思います。

ブラジルは選手が豊富で、監督はそれを組み合わせてチームにする。それが生きた時代と、そうでないのが今。2002年では予選は楽なグループだが、決勝トーナメントに行った時に限界があると思う。これは大切です。

日本にきたブラジルの指導者は、自分達はブラジルだと言って日本の指導者の言う事も聞かない。ワールドカップの結果によって話をするが、それは彼らの指導力がいいからではない。そこにサッカーの遅れがあるので、6ヵ月で立てなおすのは難しいのではないのでしょうか。

**鈴木(ジュン)**:戦術的な事をいうと、ブラジルのサッカーは間延びしている。ディフェンスとフォワードのラインが空いている。暑い気候的な物もあるが、空いている中盤を改善すれば、タレントはいるのでいい結果が出せる示唆になるのではないかと。

**松本**:鈴木君の話に付け加えれば、コンパクトにして、一つのボールに数人の選手が行くよりも、相手との1対1の場面を次々に作ったほうが、個人技がいきるのではないかと。間延びしたサッカーでもやれてきたが、今はトータルサッカーなので11人でコンパクトにそれをしなければなりません。

鈴木君は協会の人だから言えないが、私の場合は言えます。アントラーズのジョアン・カルロス、その後グランパスに行って、セレッソに行って全部失敗しましたね。彼のサッカーはまさに間延びです。フォワードとバックラインが幅広い。その為にアントラーズは迷った時期があった。だから、個人技を活かすためにスペースは、一人ずつある程度あった方がいい。そのサッカーは古くなっているんですね。そこらが問題なのにブラジルの指導者はまだ気付いてないのです。

**下田(シモ)**:イングランドのエリクソンのように外人の監督を使う、組織を教える人を持ってきたほうがいいのではないかと。ただ、プライドもあるし、アルゼンチンより先に外人をもって来たくはないだろう。それくらいの問題だ。ヨーロッパに選手はたくさんいるから選手はわかっているかもしれないが、彼らが代表ではない。

**鈴木(ジュン)**: ブラジルのクラブチーム、サンカエターノというチームが活躍しているが、ヨーロッパに近いサッカーをする。去年も今年も活躍した。11人攻撃、11人守備と言うモビリティなサッカーをするので、そういうチーム、指導者がでてきている。国全体には行き渡ってないです。

### <注目する国・期待する選手>

**竹鼻**: 各組の1位、2位の話をしたかった。これから2時間くらいしゃべってもいいくらいですが(笑い)、そうもいけないので、注目する国、期待する選手を3人くらいあげてください。

**鈴木(ジュン)**: ルイコスタ、オーウェン、サビオラです。ルイコスタは、ワールドユースで活躍したポルトガルの選手です。若手の選手が檜舞台でどんな活躍をするか、見てみたい。オーウェンも同じです。マレーシアの大会で活躍しました。サビオラも今年のアルゼンチン大会で活躍しましたが、彼は代表になるかどうかわかりません。彼の動きを見た10人中10人がすごいと言う、選手です。

**竹鼻**: サビオラをスーパーサブで使うとおもしろいですね。

**鈴木(ジュン)**: そうですね。彼は、パス、ドリブル、ワンタッチのプレーなどどれでもできる選手で、守備もできます。90分はまだ無理かもしれないが、期待しています。

**竹鼻**: 160センチくらいの身長で、日本人が親しみを持つ顔の選手ですね。

**下田(シモ)**: アルゼンチンのサビオラはジュンさんと一緒です。1998年のワウダーキッドがオーウェンであるならば、2002年のそれはサビオラであって欲しい。それと、ロベルト・バジジョ。イタリアが仙台をキャンプ地にするかもしれないと言う事で、是非ロビーを見てみたい。

また、選手名ではないが、ファンタジスタを見てみたい。いろんなタイプのファンタジスタがいるが、ルイコスタ、トッティ、など、どのファンタジスタが一番すごいのか見てみたいです。国では、セネガル。アフリカの中では秩序だったチームと思う。開幕戦でフランスと戦うが、1990年のアルゼンチンに対するカメルーンのようにノーマークで仕事をするかもしれない。

**松本**: チームでは、ドリブルとパスの両方が使えるチーム、フランス、スペインとアルゼンチン。特にスペインに勝ち残って欲しい。

日本人からみるとどうしてというようなプレーをする、南アフリカの黒人たちのサッカーに期待を持っている。ヨーロッパの指導者が入って組織的サッカーを教え始めていて、彼らの本能が発揮される。1990年イタリア大会の時。1982年、チュニジアがドイツを破って、初めてアフリカが1勝した。

彼らの反応の速さはなぜか、実はアキレス腱の長さです。私達のアキレス腱は短くてすぐ被覆筋になる。彼らにはこれが無いのです。アキレス腱が膝の所まであります。そのアキレス腱の長さ、足の裏が地面に着いた時の反応の速さがアフリカの選手の特徴です。指導者が作れない選手に対して興味があります。

**竹鼻**: 最後に私も、夢のある選手、ファンタジスタに活躍して欲しい。リバウドやフィーゴはファンタジスタではない。ジュンもあげたポルトガルのルイコスタ、10番。夢のようなプレーができる。皆さん彼に是非注目してください。

また、フランスのアンリ。滑らかなプレーをするフォワードです。アンリ、トレゼゲの2人のフォワードの1人です。ゲームメーカー的動きをする。昔からのフランスの香りがする優雅な選手です。

もう一人は、シモと同じ、「頼むぞ、トラップ。ロベルト・バジジョ」と私も思ってます(笑い)。夢のある選手で、ワールドカップに出られるとしたらこれが最後になるだろうが、怪我をしている。彼には是非来て、スーパーサブでいいから出て欲しいです。

アメリカ大会の時、PK戦でブラジルに負けたとき、印象に残っている写真がある。PKを外した時、10番をつけて下を向いている彼を、スタジアム7万人の観衆が皆見ている1枚。是非きて欲しいです。

期待しているチームはウルグアイです。ポルトガルには優勝して欲しいが、松本さんの言われるように無理かなと思います。

### <ベスト4>

最後に、ベスト4をあげてください。

**下田(シモ)**:期待も込めて、アルゼンチンかブラジルのどちらか対日本。韓国ラウンドは、イタリアかドイツ対カメルーン。優勝は南米のどちらか。

**松本**:韓国サイドは、イタリアとポルトガルの準決勝、日本サイドはフランスとアルゼンチンの準決勝。決勝は、ヨーロッパと南米でやらせたいので、アルゼンチン対イタリア、ポルトガルのどちらかと予測しました。

**鈴木(ジュン)**:同じです(笑い)。フランス、アルゼンチン、ポルトガル、イタリア。優勝はアルゼンチンが行くのでは。

**竹鼻**:最後に私が。韓国ラウンドでは、イタリア対ポルトガル、日本ラウンドはウラへ行って、ブラジル対アルゼンチン。

フランスはその前に負ける。根拠はフランスの4バックが歳を取りすぎている。リザラズ、テュラム、デサイーが30歳を過ぎている。1人、シルベストルが若いけど、決勝までの7試合、日本の暑さの中でバテて、準々決勝でブラジルに負けるだろう。暑さに慣れているブラジルが静岡エコパでフランスに勝つでしょう。優勝はアルゼンチン。みな、あまり変わりませんねえ。

**下田(シモ)**:僕は全然違いますよ(笑い)。だって、準々決勝は、日本対中国。宮城スタジアムです。でも多分、当たらないでしょう。

**竹鼻**:本当は、チェコとオランダがきてくれれば、この大会は文句無かったのですが、残念です。

宮城スタジアムの決勝トーナメント1回戦は、ロシア対トルコだと思います。トルコのサポーターが来たら少し荒れるかも知れません。トルコがきたら私達は覚悟が必要かも知れません。

時間があれば、全試合を語りたかったです。今日のこの分科会を楽しみにしてきました。改めて、松本育夫さん、鈴木淳さん、下田恒幸さんに拍手をいたしましょう。ありがとうございました。(拍手)

(記録者・野坂)

## 2002 FIFAワールドカップ™フリートーク・フェスタ 分科会

### 「交流としてのワールドカップ～ネットワークが広がる」

2001年12月2日(日)14:30~16:00

場所：ハーネル仙台

パネラー：ジュリアン・カール・クロッカー氏(イングランド)

ジョウジ・エスピノザ氏(メキシコ)

ウー・チャン・スー氏(在日韓国二世)

シェーク・ンジャユ氏(セネガル)

コーディネーター：三雲 茂晴氏(ミヤギテレビアナウンサー)

**三雲 茂晴氏(ミヤギテレビアナウンサー)：**皆さんこんにちは、ミヤギテレビの三雲と申します。今ベガルタ情報が入ってまいりまして同点だったらいいんです途中まで1対1で、驚きましたね逆転したみたいで、今3-1になっているそうです。今日も仙台スタジアムは1万人を越えているという観客で、本当にパブリーではなくてサッカーが根付いていってほしいなあと、でも間違いないですね、サッカーというものを通しておらがまちのチームベガルタが、信じることだとか、あきらめないことだとか、そういうことを我々に非常に教えてくれて、それがなんといっても大きなことかと思っております。

で、今度のWカップ、私も実は前回98年のフランス大会を初めて体感をしてきました。その時に本当にショックを受けました。当初はサッカーのゲームに何故これほど多くの人たち、世界中の人たちが興奮するのだろうか、何故なのだろうか、そういう思いでサッカーのゲームを見るということよりも、何故Wカップなのだということを知りたくてフランスに行ってきました。その答えが少しずつですけれども私も分ってきているというまだ過程です。今度の初めてアジアで開催されるWカップ、一部では本物ではないんじゃないか、それはなぜかという、今まではヨーロッパと南米でしか行なわれたことのないWカップで、それ以外で行なわれることが、我々にとっては誇りであって嬉しいことですが、偽者だ、なんてそんな声もちらほら聞こえてくるのも事実です。だからこそ、逆に我々も世界の人たちに日本そして韓国共同開催ということで、今まであまりサッカーが強くなかった国でも、こんな素晴らしい大会が出来た。我々もいい体験ができた。そんなものにしたい。誰がということではなくみんなで盛り上げていくものだと思います。

正直申し上げてこの分科会、私も本当ならばどこが強いかわからない竹鼻さんがやっていて松本育夫さん、鈴木さん、仙台放送の下田さんが参加している方が面白そうかな、なんて思ったのですが、ただ、みなさん、考えてみてください。この分科会はある意味で一番インターナショナルな分科会なんです。今日のパネラーのみなさん、各大陸から参加をさせていただいております。ヨーロッパそして北中米カリブ海、そしてアジア、アフリカ。他の会でこんな分科会あるでしょうか。最もイン

ターナショナルな分科会と自負してやみません。

ヨーロッパ15チームを代表してイングランド、サッカーが生まれた所です。ジュリアン・カール・クロッカーさんです。ちょっとお立ち頂きましょう。ジュリアンさんはイングランドのご出身で今国分町でスポーツバー「シャフト」(をやっています)行った事ある人?おっ、やるじゃん。(笑い)いったこと無い人、ぜひ今晚やっているそうですから。(笑い)終わったあと今日はジュリアンのおごりだそうです。(笑い)あとミヤギテレビでも以前番組やっていただきましたし、東北放送でラジオ「ハローサッカーフリッカーズ」(毎週土曜日夜7時)をやっています。別にミヤギテレビだからなんて関係ないです、枠をこえてサッカーを愛する者たちで盛り上げていこう。(笑い)ジュリアンさん、ありがとうございます。日本滞在12年。(拍手)

そして、今度は北中米カリブ海を代表してメキシコからジヨウジ・エスピノザさんです、どうぞご起立下さい。プロのシンガーだそうです。今日ものったら歌っちゃうぞ、と。(ジヨウジさん、歌う)素晴らしい。(拍手)これ以上聞くとお金が発生するということなのでお許してください。そして今アジュール仙台の20階、ラテンレストランの「サンバサンバ」のマネージャーです。行った事ある人?行った事ない人?これからは「サンバサンバ」で食べてからジュリアンのお店に行くという流れにしましょう。よろしく願います。(拍手)

そしてアジア4チーム代表ということで韓国からウー・チャン・スーさんです。よろしく願います。ウーさんは小学校・中学校が気仙沼だそうです。生まれも育ちも宮城県ということ。在日の韓国二世ということで、今、仙台市と大崎地方でハングル教室「仙台ハングル講座2002」というのを主催されているということです。又、本業は設計をなさるということです。ウー・チャン・スーさんです、よろしく願います。(拍手)

そして今回アフリカ初出場、セネガルです、おめでとうございました。(拍手)

シェーク・ンジャユさん、今東北大学に留学をしているということで、電子工学を勉強しているとのこと。え～、分かりません。(笑い)仙台に来てもう4年たつということで将来はセネガルに戻って大学の先生になりたいという、大きな夢をもっていらっしゃるということです。シェークさん、セネガルってどのあたりにあるんですか?(シェークさん、ホワイトボードに地図を書く)セネガルは1960年にフランスから独立したんですね。ということは母国語はフランス語ですか?(シェークさん、カタカナでオロフ語と書く)すごいですね、カタカナ完璧ですね。オロフ語ですか。今回Wカップ、初出場が何チームあるか知っていますか?はい、4チームですね。その中のセネガル、台風の目とも言われています。非常に驚異でもありますが、シェークさんです。よろしく願います。(拍手)

ここに本当は南米が加われば完璧だったのですが、メキシコのエスピノザさんに怒られるかもしれませんが、大きな意味ではメキシコも南米に近いと考えれば、すべての大陸からのターナショナルな分科会です。さっそくご本人の自己紹介も兼ねながら自分の国ではサッカーはどれだけ人気があるんだ、どれだけすごいんだ、ということをお話を自慢をしていただきたいと思います、まずはジュリアンからいきましょう。

### <サッカーお国自慢>

ジュリアン・カール・クロッカー氏(イングランド): みなさん、こんにちは。とても面白い紹介をしていただきまして三雲さん、どうもありがとうございます。イングランドサッカーの自慢はいっぱいあるんですが、自慢できないこともいくつかあります・・・その前に自己紹介しましょう。私は昭和63年の夏に来日して最初は大学を卒業してからすぐ文部省の英語講師の仕事で東北のササニシキの超うまいところに派遣されました。米山町、御存知ですか?登米郡にあるんですけれど、米山町に行ったことのある人?うちの店(のお客さんの数)よりも少ないというのは、どっちかというときいごだっちゃ。(笑い)そこではじめて日本語を覚えたり、日本の文化について学んだりしました。いったん1年間の仕事が終わってから、「これからどうすっべ」と思って、まず世界一周旅行をしたくてあちこちまわりながら、ああ日本の1年間が良かったなあ、ああなつかしいなあ、とあって戻りたくなったんですね。その時に米山町の近くの佐沼というところの英会話教室に知り合いがいて呼んでくれたんですね。「一緒に仕事、してけねすか?」と。でいいなあ、とあって戻ってきました。それが1991年だったんです。それから話しは長くなるんですけど、自分の有限会社を設立して英会話教室を開いたり、あと2年前に仙台の国分町の真ん中にさっき紹介された「シャフト」が出来まして、ほとんど今はシャフトでおいしいイギリスのビールを飲みながら仕事、一応仕事なんですけど楽しみながら営業しています。大学で体育教師になるための勉強をしていたんですが、その前に10歳でサッカー少年団に入りました。イギリス人としては遅い方なんです。本当はイギリス人は生まれたときからサッカーボールと遊んでいるから5・6歳からサッカー少年団に入っておかしくない国なんです。イギリスの男性はみんなサッカーはある程度できます。私は大学に入る前に県はないけど「カウンティ代表」になって、そこで多分一番いいサッカーをやっていました。それから大学に入って忙しくなったんですけれども今でも実際現役ですね。私は今年年男ということで、「巳年」で36歳なんですけど、サッカーをやっているんです。実は仙台で「宮城ユナイテッド」という国際チーム、日本人も入っているんな国のサッカーが好きな人たちが集まってあちこちで親善試合をやっています。シェークさんも何回かうちのチームに入ったことがあるし、南米の「ラティノス」というチームとやったりしているし、仙台はベガルタ仙台だけじゃなくて、仙台に住んでいる外国人の中でも既にサッカーが盛り上がっているんですね。

続きましてイングランドサッカーに対する自慢、実は3つあります。ひとつはやっぱり世界の一番人気があって素晴らしいスポーツの発祥地がイングランド(である)それがすごく自慢ですね。そしてサッカーはイギリスの国技ですね。みんなやっているし大好きで女性でも男性でも関係なく好きですね。2つめの自慢は1966年の(イングランドが主催国の)Wカップの決勝戦でなんとかがんばって西ドイツを破って優勝しました。それはイングランドのサッカーサポーターの一番自慢なことです。イギリス人が最近イングランドのサッカーのプレーが良くないと言われたら必ず、「でも1966年に優勝した」という風に言うんです。確かに私が大学時代とか、私が生きている間にイングランドのサッカーを見ていて、ちょっとレベルが落ちてきているなあ、と思ったところ。イギリスのプレミアリーグ(昔の一部リーグがプレミアリーグになって)に外

国からいろんな選手が入ってくる形になって、どんどん外国選手(ヨーロッパや南米の選手)のいい影響でイングランドサッカーは最近変わってきて、ただあたりが激しいサッカーとか、ロングボールを入れてガッツプレイとかいう典型的なサッカーから、ボールを持てる選手も出てきたんですね。そこで3つめの自慢ですが、現在の一番いいサッカー選手の2人が今イングランドにいる。一人はスパイスボーイのベッカム、もう一人はFWのオウエン選手。この2人の選手はどちらも前回のフランスWカップの時に大活躍をして、この4年の間にもっと成長してこの2人の選手が元気であれば、ようするにケガしなければイングランドは優勝できる可能性がすごく高いと思います。最期に長くなったんですけどイギリスのサッカーの自慢できないところ、ようするに恥ずかしいところはフリーガンですね。インランドサポーターみんながフリーガンというわけではないんです。私の格好では見た感じでやっぱりイギリスのフリーガンとってしまうかもしれないけど(笑い) こういう頭してね。(笑い: ジュリアンはスキンヘッド)

本当は今日の分科会のためにここに赤い十字を(笑い)書いて、記念にバリバリで行こうと思ったんだけど、ちょっと抑えました。で、ほとんどのそういう格好の人は本当のサッカーのサポーターで、自分の国を愛して情熱が高いんですけど、一部のワルがいてその人たちは集まって暴力を起こすための団体ですね。今回のセキュリティがすごく厳しくなったんで入ってこないように整備されていると思うんですが、私も(惜しかったんです)同じグループのスウェーデンとアルゼンチンが宮城県に来ますけれど、(イングランドが来なかったというのは)ちょっと複雑ですがほっとしましたね。(笑い) その代わりにメキシコに頑張ってもらおう。(笑い) ということで以上です。(拍手)

**三雲 茂晴氏:** さすがにサッカー発祥の地でもあるし、第8回大会です。イングランドが優勝したのは、来年は17回大会。はるか昔といえはるか昔なんですが、今イングランドのサッカーがオウエンとかベッカムというスターを擁して今回は狙っているという意気込みを感じました。次ぎはメキシコ、これまでメキシコというと、ベスト8が二度ある、そのメキシコのサッカー自慢というのをジョウジさんにしていただきましょうか。お願いします。

**ジョウジ・エスピノザ氏(メキシコ):** ありがとうございます。みなさんこんにちにはよろしくお願ひいたします。(拍手) メキシコでは文化として1,500年前にボールゲームが始まりました。このゲームの負けたチーム。(首を切るマネ) 神様の前でみせるんですね。

**三雲 茂晴氏:** その意味ではサッカーの歴史はイングランドより古いかもしれないというわけですね。サッカーが一番の人気ですか?

**ジョウジ・エスピノザ氏:** 人気です。1970年と1986年に2回Wカップをやったし、子どもからみんな道で(ボールがなくても)なんでもキックできるものでやっています。メキシコのアスティカスタジアムは11万です。仕事を休んででもサッカーを見に行きます。それがあたりまえなんです。

**三雲 茂晴氏:** メキシコがサッカーでどのくらいかという、イングランドが今回Wカップにでるのが11回目ですね、メキシコは今度で12回。つまりイングランドよりも出場しているわけです。もちろん、各大陸の予選の大変さ、ヨーロッパのレベルの高さもあるかも知れませんが、

メキシコはしかも3大会連続の出場、イングランドは2大会連続、その意味では実績とか経験があるのであなどれないチームで、しかも6月9日の宮城スタジアムの初戦が「メキシコとエクアドル」という対戦ですからね。

**ジョウジ・エスピノザ氏**：そうですね、とても嬉しいですよ。誰かチケット？（笑い）

（ジユリアンがもっているという合図）あった！ありがとうございます。（笑い）

**三雲 茂晴氏**：メキシコもやはりサッカーが国技であるということが分かったかと思います。ありがとうございました。そして次ぎは韓国のサッカー自慢についてウーさん。

**ウー・チャン・スー氏**：私は韓国生まれではないので韓国サッカーにはうといんですが、隣にセネガルの方がいらっしゃいますが、実は先週（全州ビビンバで有名）全州に競技場がオープンしましてセネガルと試合をしましたが、0対1で負けているんですね。こういうことでいいんでしょうか？クロアチアとは1勝1引き分けです。ヨーロッパに対してはジンクツがあるものから勝ったのはうれしいですね。

**三雲 茂晴氏**：ウーさん韓国でもサッカーはNO1人気スポーツなんですか？

**ウー・チャン・スー氏**：そうですね、日韓条約というのが今から35年ほど前に結ばれて、在日韓国人も自由に出入りが出来るようになって、最初に行って目に付いたのは子どもたちのサッカーをやっている姿です。おとなもサッカーをしていて野球はあまりやっていませんでした。国技なんですね。その頃も今も。さきほど松本さんのお話しの中で北朝鮮がブラジルで66年に0-3で勝っていて逆転されましたが、北朝鮮もすごく強かった。

去年の10月に韓国で宮城のU-12チームとブラジルのサンパウロ・ジュニア（の役員の子どもたち）などをスウォン（水原）に招待しました。韓国チームはチャ・ボンゲン。（フランス大会の監督）彼がハンガンの川辺で小中高の教室を開いているんですが、高校生がすごくて自分の教えている子どもたちをどんどんドイツに送っています。そこから次のWカップに出てくる訳です。実は韓国はこれから、丁度今谷間にいるんです。日本はしたから上がってきて今とびこえている状態でランキングでも差があります。で少年のサッカーは面白いですね。大人のかけひきもやりながら少年の純粋さももって試合をする、その時に予算がない中で国際一級の審判員を呼んでレフリーをしてもらいましたが、宮城県のトレセンU-12は非常にスポーツマンシップにのっとって態度がいいと審判が良かったです。韓国はチャ・ボンゲンの下でたった一人で小学生に指導しているコーチがいて、その人が子どもたちを集めて何か言うときには空をみていうんですね、つまり怒らないで教えているんです。日本も韓国もほぼ同じような成績でしたが非常におもしろかったです。

今回の2002年Wカップで忘れてならないのは韓日、日韓共催ということですね。

地図を南を上にしてみると、韓国の上に日本があってヨーロッパからみると経済的にも無視できない強大な国になります。結果として両国をたてたという形ですがこの意義は非常に大きいと思います。今日韓の関係はもっと仲良くなる必要がある。2002年を契機にもっと市民交流をやるべきですね。サッカーは大切ですが、サッカーが終わって何が残るかという交流なんですね。日韓が仲良くなることでアジア全体が良くなる、そんなことを期待して今回のWカップをみてお

ります。

**三雲 茂晴氏**：ウーさんはこの分科会の最終的なテーマである交流という所までお話しをしてくださいましたが、ここはまたみんなでじっくりと話したいと思います。今ちょっと謙虚に言われましたが、アジアの中で韓国はダントツの出場回数を誇って5大会連続の6回目、ただ、まだ1勝もできていない。逆にそれが世界のサッカーだと思います。だから日本が前回始めて世界の大会にでて勝てるはずがない、と同時に前回初出場でクロアチアがいきなり3位まで行ってしまふ。これはヨーロッパあなどれないな。そしてあなどれないといえればアフリカにあるセネガル、初出場です。初出場ですがやるのではないか。アフリカ大陸の一番西側にある小さな国、日本と比べてどれくらいの大きさですか？

**シェーク・ンジャユ氏**：面積は半分くらい、人口が15分の1くらい。その中でサッカーが一番人気のあるスポーツです。大体6歳くらいからサッカーをやります。私の場合だと多分4歳くらいからだったと思います。プロリーグもあります。今のナショナルチームのほとんどは外国でやっている選手です。

**三雲 茂晴氏**：そうですね、今でましたけれどもフランスのトップリーグにはセネガルの選手がたくさん出ているということで、フィジカルが強いといわれますが、同じアフリカのチュニジアや南アフリカと比べてセネガルのサッカーの特徴というのはあるんですか？

**シェーク・ンジャユ氏**：セネガル人というのは（ナイジェリア人やチュニジア人と違って）僕みたいに体が小さい。弱くみえるんですがテクニックがあると思います。技術、個人のプレーのすごい選手がけっこういますし、アフリカでは自信をもってNo.1といえます。

**三雲 茂晴氏**：こわいですね。（10月に日本代表に2-0で勝っているとの声）ブキミですねセネガル。昨日そのセネガルも含めてファイナル・ドロー、抽選会が行なわれました。母国の抽選結果に対してどんな感想をもち、どんな成績を期待するかということをお今回はシェークさんから聞いていきたいと思ひます。

#### < ドローの感想と母国の成績への期待 >

**三雲 茂晴氏**：セネガルはどこと一緒にになったかということ、開幕ゲームでフランス、可愛そうに。（笑い）そして、ウルグアイ、Wカップの第1回大会の開催地。今回は苦しんで出場を決めたばかりです。そしてヨーロッパのデンマークのA組になったわけです。では感想を聞きましょう。

**シェーク・ンジャユ氏**：フランスは（前回の）優勝国なんですけれども、私はフランスは怖くない。というのも今の代表の選手はみんなフランスでプレーしていて、フランス人のプレーとかは分かっているから問題ない。（拍手）ありがとうございます。

**三雲 茂晴氏**：90年のイタリア大会の時にもこんなデータがあります。86年の大会での優勝国がアルゼンチンだったんですが、下馬評が高くなかったやはりアフリカのカメルーンに破られています。では初出場のセネガルとしてはどのくらいまでいけると思ひていますか？

**シェーク・ンジャユ氏**：セネガルにはこういう言い伝えがあります。「（セネガル人は）がんば

ればなんでも出来る」ということで、がんばればなんとかなると思います。

**三雲 茂晴氏**：セネガルでこの選手に注目という人を誰か一人あげてもらえますか？

**シェーク・ンジャユ氏**：今フランスでも話題になっているんですが、「エルハッジ・ディウフ」FWです。昨日ドローが終わったあとのインタビューでトルシエが尊敬している選手として上げられていました。とにかく点をとる能力があります。1986年ころエジプトでアフリカンカップがあったんですが、その時のチームは強かったんですが、その後サッカーへの関心が無くなってみんなバスケットに関心が向いてしまいました。今のチームはこの2年間くらいで決まってきたメンバーです。

**三雲 茂晴氏**：5月31日のソウルで行われる開幕ゲーム、フランス対セネガル。これはちょっと注目しましょう。では続いてD組に入りました韓国。優勝候補の一角ポルトガル、ポーランド、アメリカと一緒に。しかも6月4日釜山でポーランド、ウーさんどうですか？

**ウー・チャン・スー氏**：韓国はまずポーランドに1対0で勝つわけです。(笑い)後半のロスタイムあたりでポンと。日本はこの前にベルギーに2対0くらいで勝っている。次ぎはアメリカ、アメリカは早めにきて疲れていますので1対1ですね。ちょっと控えめにして。でポルトガルとは、これはポルトガルの勝ちですね。(笑い)これはしょうがないです。で計算すると第2位が韓国になるんです。(笑い)どう計算してもそうなる。日本もきわどいけれど決勝リーグに進みます。

**三雲 茂晴氏**：さて続いてですが、メキシコです。優勝候補のイタリアと同じG組に入りました。クロアチア、そしてエクアドル。さあ、ジョウジさん、どうでしょう。

**ジョウジ・エスピノザ氏**：(しばらく考えて)心配、(笑い)最初はエクアドルでしょ、これはチャンスですね、ここでいっぱいゴールをいければ次のイタリア戦、安心して出来るかもしれない。宮城スタジアムのエクアドル戦は3 - 0、イタリア戦はゴハンいっぱい食べないと駄目。(笑い)サンバサンバで。もう6月9日のゲームのあと予約がありました。(笑い)イリタアとは良ければ1 - 1、クロアチアも強い。しかし、メキシコもディフェンスは強い。ただ、いいゲームをしていても注意しないと集中がきれてしまうことがある。

**三雲 茂晴氏**：メキシコで誰かこの選手は覚えていた方がいいという選手はいますか？

**ジョウジ・エスピノザ氏**：ブランコ、FWです。大丈夫だと思います。

**三雲 茂晴氏**：さあ、満を持しての登場です。イングランド。これはおそらくWカップ史上に残る激戦区とっていいでしょうね。アルゼンチン・ナイジェリア・スウェーデンというF組に入ったイングランドです。ジュリアンさん感想を。

**ジュリアン・カール・クロッカー氏**：昨日すごく何だこれは、と思いました。(笑い)ずるいなあと。すべての4つのチームにチャンスがあると思いますが、この間スウェーデンと親善試合をやって1 - 1の引き分けでした。去年はじめてイングランド人じゃない監督になりました。その人は実はスウェーデン人でエリクソン監督。一番最初の試合が2日に行なわれるわけですが、(親善試合と同じ組み合わせで)この間のゲームがすごく有意義になったと思います。

**三雲 茂晴氏**：確かに今イングランドは攻守のバランスがとてもいいんですが、特にエリクソ

ン監督になってからまったく負けていない。これは大きいと思うんですね。後はスウェーデンと戦って勝ってくれば2試合目がアルゼンチンですから、いきなり当たるというよりは流れとしていいと思います。前はベッカムが若くて退場してしまいましたから、ある意味リベンジマッチになります。どちらも上り調子ですから注目ですね。前回のWカップではイングランドとアルゼンチンの試合が一番面白かったですから、前半おしていてベッカムの退場で守備ばかりになってしまって、PK戦にいくと弱いんです。団体では強いけれど一人だけの勝負になると緊張するんですね。だからPK戦にはなってほしくありません。

**三雲 茂晴氏**：あえて聞きますけれども第1戦がスウェーデン、どうですか。

**ジュリアン・カール・クロッカー氏**：3対1でイングランドの勝ちです。そしてアルゼンチンとは同点という気がします。ナイジェリアとは1-0とか。やっぱり決勝トーナメントのために少し残しておかないと。(笑い)

### <プレーと応援のスタイル>

**三雲 茂晴氏**：なるほど、先ほどの基調講演で松本育夫さんがおっしゃっていました。Wカップは1ヶ月にわたる大会、どこにピークをもっていくかですが、ただこのF組に関してはどこにピークをなんて言っていたら足元をすくわれてしまう。どこも優勝候補ですから。ベッカムやオーウェンについてはどうですか？

**ジュリアン・カール・クロッカー氏**：ですからWカップ直前にケガ人がでないように休んでほしいですね。ベッカムは中盤の選手で世界のトップチームの一つマンチェスター・ユナイテッドにいます。彼のいいところはパスの正確さでほとんど100%でいつも感動しています。ショートパスでもロングパスでもすごく正確です。あとはフリーキックですね。これはすごい。ゴールの近くであればどこからでもゴールに入る可能性が高いです。オーウェンは前回18歳でしたが、彼は難しいプレーはしないけれど典型的にストライカーだと思います。ヘディングも出来るし足が速くて右も左も使えるのが大きい。絶対ケガしないように。(笑い)

**三雲 茂晴氏**：さっき松本さんが「サッカーは国民性がわかる、その後ろに文化がある」という話しをしていましたが、どういうサッカーをしたらその国のサッカーになっているのか。というものを知りたいですね。残念ながら日本はまだ探しているところ、それは前回はじめてWカップに参加し、93年にJリーグができてサッカーで生きていこうという環境ができた。そんな中で日本のスタイルというのはまだまだ探しているところ、ではイングランドのサッカーのスタイルというのは昔からどんなものですか？

**ジュリアン・カール・クロッカー氏**：イングランドのサッカーはダイレクトサッカーですね。ボールをもらったら第1の目的は一番ゴールの近くにいる空いている選手にダイレクトに出す。あんまり中盤で余計なパスはしません。ただ、ロングボールがベストなだけでなく、個人技を持っている選手が増えてきたので変わってきました。ジェラードという選手にも注目です。今までも強かったしあたりも激しくてタックルも良くて、前での決定力もあったけれども、中盤の方に個人技を持っている選手がいなかった。今回はチャンスがあると思っています。

**三雲 茂晴氏**：応援のスタイルでこういうのがイングランドというのはあるんですか？

**ジュリアン・カール・クロッカー氏**：オーウェンはダジャレですね。(笑い)

サポーターは創造力がないからいつも「イングランド」しか言わない。(笑い)

**三雲 茂晴氏**：メキシコのサッカーのスタイルはどうですか？

**ジョウジ・エスピノザ氏**：ディフェンスが良くてテクニシャンが多い。パスが多くて全体にスペースをあげて攻撃します。攻撃が一番のディフェンスです。

**三雲 茂晴氏**：メキシコの応援のスタイルはどうですか？

**ジュリアン・カール・クロッカー氏**：僕はフランスワールドカップの時に一人で宿泊とか用意しないで行ったんですが、その時にユースホテルでメキシコの人と友人になってとても陽気でフレンドリーで迫力はあるけれど怖くはないと思います。

**三雲 茂晴氏**：私もフランスに行って驚きましたが、前の日とか、前の前の日から街中で踊っているんです。どうして騒げるの？

**ジョウジ・エスピノザ氏**：だって楽しいじゃない。(笑い)終わってからも騒ぎます。

**三雲 茂晴氏**：シェークさん、セネガルは韓国でゲームですが、セネガルの方もやはりゲームでは熱くなるんですか？

**シェーク・ンジャコ氏**：ゲームが終わってから騒ぎます。ゲームの前は静かです。負けたらまたしずかですけど。(笑い)勝ったら1週間ぐらい騒ぐんで。(今回Wカップに)参加が決まってから1週間はすごかったらしいです。負けたらディスカッションが多くなるので静か。

**三雲 茂晴氏**：ジュリアンに聞いてほしいね。イングランドは負けたら大変ですよ。

**ジュリアン・カール・クロッカー氏**：そうですね、静かではないですね。(笑い)すごい怒り出すんですね。ジェントルマンの国なのにね。何故かがわかればフリーガンの問題は無くなるのに。

#### <サポーターの受け入れ>

**三雲 茂晴氏**：なるほど、ウーさん我々はじめてそういうことを受け入れる側として日本と韓国はホスト国として最初とまどうと思います。どういう風に接していけばいいと思いますか？

**ウー・チャン・スー氏**：最近インチョンに国際空港ができました。みなさん降りると分かります。この間のテロ事件のあと軍隊が近くに居ますし、飛行場にいるのは警察ですが、みんな機関銃をもっています。常日頃から警備は怠らない訳です。日本は警察が銃をもっていますがなかなか抜きませんのでその辺の警備の差はかなりだと思います。それから韓国は厳しいときにはかなり戦時下的なとらえ方をしますが、日本はそんな考え方がありませんのでフリーガンが来た時と問題はテロですよ。両国ともかなり悩んでいると思いますが、韓国の方は準備はできると、日本はどのようにするのでしょうか。分かりませんね。

**三雲 茂晴氏**：日本はどのようにしていくのか具体的ところは絶対的なものは出来上がっていないようです。私たちはどうしても怖さとか大丈夫かということを考えなければいけないわけですが、ただ、私もフランスに行ったときにこまったらボランティアの方々が向こうから声をかけてくれる、もちろん英語ですけれどすごくほっとする。そんなところでフランスがいいじゃな

いか、とってしまった。

**ウー・チャン・スー氏**：今のボランティアの件なんです、日本人は1億2千6百万人いますね、ハングルを習っている人が大体5万人ぐらいいるんですね。ところが韓国は4千7百万人なんです、百万人ぐらいの人が日本語を習っています。ですから日本人が行って助けてください、と言えば10人に一人くらいは手助けができるわけですね。ところが日本では出来ない。また、韓国は英語を勉強しています。塾にいつか小さいときから習っています。日本語を習っている3倍くらいの方が英語を習っていると思うので、ボランティアについてはレベルの高いことができると思っています。私も「ハングル講座2002」という勉強会を開いているんですが、なぜかという、3年前に2002年に向かって一人でも多くの人にハングルを習って欲しいと思ってはじめてんです。もし韓国から旅行でもサポーターでもきた時に支援できる体制はやはり相手の国の言葉、基本的には英語、そして日韓の場合はハングルですね。この2大用語のある程度の人数が整わないと、終わったあとのボランティアの評価の時が怖い。物はやったけれども残ったものは何か。試合で勝つのも大事ですけどその国にきた人たちがリピーターになれるかどうかは、その地でのボランティア精神とその実績だと思います。

#### <迎える挨拶>

**三雲 茂晴氏**：その一歩が挨拶ですね。シェークさん、セネガルでは「こんにちは」というのは何ていうんですか？

**シェーク・ンジャユ氏**：「ナンガディフ」

**三雲 茂晴氏**：覚えておきましょう、みなさん「ナンガディフ」、大きな声で言えば答えてくれるんですか？「ナンガディフ」って返ってくるの？

**シェーク・ンジャユ氏**：「マニフィ」意味は元気です。

**三雲 茂晴氏**：メキシコはスペイン語圏ですね。「オーラ」

**ジョウジ・エスピノザ氏**：一番フレンドリーは「オーラ」、「ケッタレ」元気？

**三雲 茂晴氏**：「ピエン」がグッド。改めてジュリアン、英語で挨拶はどういけばいいですか。

**ジュリアン・カール・クロッカー氏**：そうですね、イギリス人は「オールライト」(語尾が上がる)そして答えは「オールライト」(語尾がさがる)(笑い)

**三雲 茂晴氏**：ではウーさん、韓国ではどんな風に？

**ウー・チャン・スー氏**：難しくいうと「アンニョンハシムカ」こんにちはですが。「アンニョンハセヨ」といったほうがいいですね。これで視線でいえば通じますから、後はキムチ食べて酒飲んで。(笑い)

**三雲 茂晴氏**：後は私たちが形で判断してはいけない、ということですね。形というか騒いでいたら近づくのが怖いですよ。私も最初は感覚的に理解できなかったですけど、ところがしばらくいると自然に踊っている自分に気づくんです。これがWカップなのかな、という経験したことのないことなんです。たとえばバレーで、水泳でも野球でもWカップがありました。私も最初はなんでサッカーだけというのがありましたが、いかに勉強していなかったかという。たとえ

ば世界のほとんどの国はサッカーが国技なんですね。日本の相撲みたいなもの。だから言い方はあれですが、アメリカや南米に相撲で負けたりすると俺たちのもんだ、みたいなものがあったりするじゃないですか。サッカーみんなそうなんですね。イタリアはゴールにカギをかけることを「カテナチオ」というそうですが、イタリアはローマの時代から征服されたり、征服したり栄枯盛衰を繰り返してきたじゃないですか、だからここぞという時のために力を蓄えておくということが国民性の中にあるそうなんです。だからサッカーも良く守って面白くないんだけど負けな。だからそういう国民性がよく出てきている。それがいいわるいじゃなくて、その国のスタイルだと思うんです。Wカップというのは出場国のほとんどが国技、自分の国を背負ってきているわけだから、だから負けてしまうと何か自分たちの国民が否定されたみたいに口惜しくなる。日本も変わりつつある。私もテレビの世界にいますが、トヨタカップよりも代表のゲームが人も入る。しかし、世界的に見たら代表のゲームはあまりレベルは高くない。けれどテレビで見る、足をはこぶというのはなんとなく、俺たちも戦っているんだ、という気持ちになっている。考えてみたら90分のゲームが3試合しかない。270分のためにものすごいスタジアムを作ってしまう。だから最初は冷静には理解できなかったんです。しかし、フランス大会にいて世界的にみて遅れている、今までそう感じなかったことがヤバイと感じました。いづれにしても今回はアジアで初めてのWカップだし、体験したことがないわけじゃないですか、そこでジュリアンからこの期間どう過ごすのが一番いいのか効いてみたいと思います。

#### <Wカップ期間中の過ごし方>

**ジュリアン・カール・クロッカー氏**：私は仕事からでるからメキシコの試合は生でみるんですが、ずっと国分町のうちのスポーツバーで全試合生中継でやるので(普通は夜7時からだけど)午後1時から開けておかないと、宮城県に来たサッカーのサポーターのために夜の10時からいまで放送して、いきなり雰囲気をかえて南米のラテンの音楽とか、みんな騒ぎたいから音楽を高めにしてやろうと思っています。スケジュール表では毎日シャフトに居なくちゃいけない。でも私はずっと、10年前から日本にWカップを呼ぼうとしていたころから宮城県に居たからやっと本番という感じです。ぜひ、楽しみたいと思います。

**三雲 茂晴氏**：ジョウジさんはどう過ごすのがいいと思いますか？

**ジョウジ・エスピノザ氏**：そうですね。店(サンバサンバ)でワールドメニュー、世界の飲み物と32ヶ国最低1つ、新しいショーも準備しています。

**三雲 茂晴氏**：さて、ウーさんはどう過ごすのが一番いいなあ、と思っていますか？

**ウー・チャン・スー氏**：日本の試合があった後に韓国の試合がある、という面白さ。これは絶対に面白い。私としては日韓共催という点を大事にして一人でも多くの人が交流できる活動をしていきたい。ゲーム期間中は街中にいて韓国のひとのためにボランティアでもしたいと思っていますがまだ決まっていません。別に企画しているのは会話集を作って配ろうとか。ストリートハングルをやるうとか。僕の目標は2002年までに1001人の人にハングルを覚えてもらうという。個人的に半分やりますから、あとは県とか市がやってほしい。みなさんもぜひ、ハングル

を覚えていただいて宮城県仙台市を韓国で一番有名な町にしよう、と思っています。それと韓国の会場ですね。日本の会場と韓国の会場10ヶ所ずつ暗記していただこうと思っています。覚え方なんです、3331で覚えるんです。日本は上から札幌・新潟・宮城県と3つ覚える。太平洋側の海岸線茨城・埼玉・横浜と覚える。次に東海側静岡・大阪・神戸と3つ覚える。そして大分と。これで3331。韓国もまずはインチョン・ソウル・その下のスウオンで3つ。下においてテジョン・チョンジュ・クァンジュで3つ、次に右に移ってリンゴのおいしいテグ・ウルサンその下のプサン、そしてソギポ。せっかくですから開催地を覚えてください。将来の日韓交流にも役立つと思います。(拍手)

**三雲 茂晴氏**：シェークさんはどのようにたのしむのがいいと思いますか？

**シェーク・ンジャユ氏**：残念ながらセネガルは韓国でやるんですが、カルビにはまらないか心配です。私は来年の5月から卒論を書くので残念ですが、出来れば韓国まで行って応援したいと出来なければ仙台で応援する予定です。

**三雲 茂晴氏**：ホスト国の日本にこうして欲しいとおもうことがありますか？

**シェーク・ンジャユ氏**：サッカーのWカップですからまず盛り上げたい。その雰囲気を作って欲しい。

**三雲 茂晴氏**：私がちょっと心配なのもそのところで、盛り上がったら行くぞ、ということだけではなくて盛り上がってもいいです。という雰囲気作りも必要で、自分たちと違うスタイルで盛り上がっている人たちをみても、それを否定するのではなくて大きな気持ちで受け入れてほしいと思います。今回宮城スタジアムをみるとスペイン語圏が多いんです。メキシコ・エクアドル・アルゼンチン。6ヶ国のうちの少なくとも半分がスペイン語圏ということは、表記の問題にしても対応が必要だろうと思います。

すごい短い時間でした。6ヶ国の人々が宮城にやってくる。少しでもいい思い出を残していただけるように、あったかい大会にしたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

(文責：泉田)

## 第2回 ワールドカップ フリートーク・フェスタ

### パネルディスカッション 1 「ワールドカップを振り返って」

2002年7月21日(日) 12:30～14:00

場所：ハーネル仙台

パネラー：ジョージ・エスピノサ氏(メキシコ)

ウー・チャン・スー氏(韓国)

下田 恒幸氏(仙台放送アナウンサー)

コーディネーター：竹鼻 純氏(ミヤギテレビアナウンサー)

**竹鼻 純氏**(ミヤギテレビアナウンサー)：皆さんこんにちは。ワールドカップが終わるとやはり人数が減りますがこれは、正直なところでしょう。我々は、ワールドカップ前にパネルディスカッションをしているのでまとめる場として必要です人数は少ないですが賑やかに話を進めていきましょう。

<ワールドカップが終わって>

まず、ワールドカップが終わって皆さん、どんな気持ちか自己紹介を兼ねて伺います。韓国は虚脱感にまわられているようですが、メキシコのジョージさんから伺います。

**ジョージ・エスピノサ氏**(メキシコ)：サンバサンバという店をやっていますが、多くの方がきました。最後の日本戦では280人の人が集まりすごかったです。メキシコの試合は見に行きました。楽しかったですし、アメリカに負けるさみしい事もありました。2006年にはドイツにいきます。

**竹鼻**：メキシコ人としては、サッカーでは自分たちがずっと上だと思っていたアメリカに負けたことは相当くやしいでしょう。次に、日韓交流に尽力され、3位決定戦が行なわれたテグの広域市観光構造委員になられたウー・チャン・スーさんです。

**ウー・チャン・スー氏**(韓国)：こんにちは、1ヶ月前のハングルの新聞を見ると、16強を目標にしようとしてありますが、開幕直前に行なわれたフランスとの練習試合を見て8強になるかもしれないと書いてあります。結果は、4強にまでなりました。これは語りようがないです。(笑い)

**竹鼻**：おなじみの仙台放送、下田恒幸アナウンサーです。シモ。

**下田 恒幸氏**(仙台放送アナウンサー)：終わるとさみしい物ですね。今までは時差の関係などでそれほどではなかったが、今回はみようと思えば、1日3試合も見ることができて素晴らしいことだと思いました。毎日見ていたので、Jリーグ再開後、1週間に1度の試合で欲求不満になります。4年後に時差と戦いながら同じくらいみようと思います。

**竹鼻**：私も同じ気持ちです。1966年イングランド大会の記録映画を見たのが最初だと思いますが、ワールドカップは遠くでやっていて、夜中にすごいなすごいなと思ってみるものだと思っていました。それが、そこら辺でやってると現実味がなくて、それまでとは接し方が違う大会でした。

日本が招致に向けて検討を開始したのが1988年、FIFAに立候補の意思表示をしたのが1889年、1990年に招致の準備事務局が発足した訳です。宮城県では、県サッカー協会が誘致を承認したのが1991年、同じ年の5月に仙台市の協会と連名で県知事に、宮城スタジアムをワールドカップ用設計変更依頼の陳情書を手渡しています。同年10月に、宮城・仙台推進委員会ができました。それ以来、11年の夢が一月前にあった訳です。その祭りが終わってどうしたらいいかという事も含めて話を進めましょう。

<ベストゲーム・ベストゴール>

ワールドカップの中でベストゲームあるいはベストゴールを伺いましょう。エスピノサさん、ナマで何試合見ま

したか。

**エスピノサ**: メキシコ対エクアドル戦です。あの試合は勝ちました。ベストゴールはロナウジーニョのフリーキックです。

**竹鼻**: イングランドの GK シーマンが飛び出した分ですね。あれはフリーキックじゃないかと言ったらエスピノサさんが、ゴールはゴールだよと言ってました。(笑い)

**エスピノサ**: マラドーナが手で入れたのもゴールです。

**竹鼻**: あれはメキシコ大会ですね。メキシコはワールドカップを 2 回も開いています。そのメキシコがアメリカに負けました。ウーさんはいかがですか。

**ウー**: どれというのではなく全体的にいい試合だったと思います。予選リーグでは、警告カードが沢山でてましたが、決勝ラウンドに入って急にカードの数が減りました。いい試合が増えたのですね。

韓国チームでは、象徴的なのがアン・ジョン・ファンのゴールデンゴールです。韓国人に勇気と希望を与えたと思います。歴史的なものも含めて韓国人の心を揺るがしたと思います。アメリカとはつながりが深いですが、引き分けた事で新しいつながりができたと思います。それ以降、韓国が 4 強に行きましたが、行く過程の中でおもしろい物があったと思います。

**下田**: 韓国のベスト 4 は悔しいという気持ちが本音であります(笑い)。意外と現実的な試合が多かったと思います。宮城のアルゼンチン対スウェーデン、スペイン対アイルランド、韓国対イタリアです。ハートがぶつかり合ったこれらの試合が印象的です。前回アルゼンチンのベルカンプのスーパーゴールのような物は少なかったです。強いてあげるなら、ジョージさんが言った試合の、ロナウジーニョがドリブルであげてリバウドが決めたゴールです。

**竹鼻**: シモと同じ意見で夢のようなプレーはあまりなかったと思います。技術を持っている人間が、マークが甘くてそのままの技術を発揮するということができないサッカーになってきていると思います。

少しオタクが入ってますが、セネガル対スウェーデンの試合でアンリ・カマラがドリブルでシュートを決めたゴールデンゴールがあります。日本人にはありえないすばらしい身体能力で決めたゴールです。

ベストゲームは、セネガル対トルコです。大会前のこのフリートークフェスタで、松本育夫さんなどとトルコって強いですよと話したと思いますが、その通り強くて、身体能力の高いセネガルを相手にペースを握って試合をしました。これがベストゲームだと思います。日本のサッカーはトルコが見本になるのではないかと思います。

< 日本・韓国の成績について >

アジアで初めてのワールドカップは意味があったと思います。日本、韓国両チームの成績について感想を伺います。ウーさん、日本の成績についてどう思いますか。

**ウー**: 前のフリートークフェスタで話したと思いますが、同じ日か次の日にお互い試合がありました。日本に続いて韓国の試合があるという意味でいい位置にありました。韓国は組み合わせは悪かったが、いいスケジュールに恵まれたと思います。

それが幸運を呼び、監督がうまく使ったと思います。それに選手が応えて、それをみている僕がいた訳です。(笑い)

日本は強いですよ。韓国では、Jリーグや海外で活躍する日本の選手のニュースはどんどん流れていました。日本の事を、知りたい、知らせよう、応援しようという度合いはうんと強いです。韓国と同等に「日本頑張れ」と皆思っていました。16 強で負けたからという問題ではなくそこに期待感があります。

日本の皆さんも K リーグを見に行ったり、少年サッカーの応援をして交流をして欲しいです。東京では、在日の韓国人と日本人とで合同の応援団ができてます。ワールドカップは日韓にとって大きな文化を残したと思います。

**竹鼻**: ジョージさんはいかがですか。日本を応援してくれたのですか。

**エスピノサ**:日本に住んでますから、もちろんです。日本は準備をたくさんして勉強しました。日本は出場が2回目ですが、メキシコは12回でてます。

**竹鼻**:ワールドカップが17回あった内の12回ですからね。最高はベスト8ですか。

**エスピノサ**:そうです。アメリカ大会です。韓国の活躍にはびっくりしました。日本との共催にも驚きましたが、普通の大会ではない、後4年はないということで準備した意気込みに驚きました。気持ちが素晴らしいです。メキシコより韓国が上をいった大会です。

**竹鼻**:シモ、韓国と日本のサッカーについて今大会どうですか。

**下田**:トルコは、予選でブラジルと引き分けですね。その後、セネガル戦を見たときにすごいと思いました。そういうトルコが、日本を相手に慎重に、また相手の良さを消す試合をした事は、日本は強くなったなと思いました。

ヨーロッパのチームは、ホーム&アウェイの考えが徹底していて相手がどんなに弱くても慎重に入るので、たかだかワールドカップに2回しか出ていないチームにあんな試合をして、結局3位になったわけですから、そういう試合をさせた日本は強くなったなと思います。

その割に日本は、0-1で負けていてもえげつなさが最後まで見えなかったです。その部分をもっていたのが韓国で、特にイタリア戦はすごかったです。同じ日に試合がありましたが、ゴール前に人のいない日本に対して、韓国は次から次に人がサイドから入ってきます。2006年に向けて見習いたい部分だと思います。

**ウー**:韓国人は勝利の瞬間、心の中で皆泣いています。選手が国民なのです。よく「自分だったらこうする」とか素人考えがありますが、それをそのままやってくれていたと思います。感動を直接貰ったと思います。5月26日はソウル市役所の前は1万人だったそうです。それが試合毎にどんどん増えて行って、皆自分がやっている直接感が強かったと思います。それが選手を勇気づけたし、走らせたと思います。

**竹鼻**:そうですね。このような、高温高多湿の中で、運動量が後半上がるのではなく、落ち方が少ないから他のチームがバテてくると韓国が押しこんでいってました。

韓国、日本共に、まずまずの成績でしたが、ここで考えなくてはいけないのは、我々はホームであった。またコンディションがよかったということです。他チームはチャンピオンズリーグなどのタフな試合を終えて、すぐワールドカップに臨まなければならなかった訳です。いい準備、いいコンディション、いい応援を受けてプレーする事ができたのは大きいです。

言葉以上にその国のプレーをみることでその国を理解する事もできました。いろんな世界を知る事ができたとし、世界も日本を知る事ができたと思います。例えば、イタリアはリードすると残り30分もあるのにデルピエロを下げて守りに入りました。それで守りきる自信が彼らにはあったわけです。

韓国は、ヒディング監督の考え方がチームとよく合ってたと思います。彼が日本にきたらあそこまでやれたかどうか疑問です。例えば、リードされた時、彼はフォワードを何人もいれました。そうすると選手は、監督は攻めるといっているんだなとメッセージを受けとってどんどん攻めていきます。この攻めるといのは韓国が昔からやっているサッカーです。

今回驚いたのは、いままで韓国はどんな小さな隙間でも攻めていっていたのが、今回無理だと思ったら一旦ボールを下げたことです。それを覚えたのは大きかったと思います。また、ヒディングがいけいけというサッカーをした事が韓国人のメンタリティにすごく合ったという事です。これは紙一重だと思います。

オランダ代表は同じ事をやってワールドカップ予選で負けてしまいました。すべての予選の試合で優位に立っていたのに手薄になった隙をつかれてワールドカップには出られなかったです。韓国もこれからオランダの様になるかもしれません。そこら辺は紙一重だと思います。逆に日本は悲観主義というか、ここで裏をつかれて2点を取られたら絶望じゃないかと思ってしまいます。

**下田**:負けたら終わりなのだから、あそこでサントスをなぜ外すかと思いました。西沢の先発はありだと思いましたが、サントスには驚きました、あのおずぶぬれの中で。(笑い)

**竹鼻:** サントスを使ったことにも驚きましたが、あのできなら、後半替える必要はなかったです。多分チーム事情はあるでしょうけれど(笑い)。あれが日本のサッカーなのでしょう、それぞれの国がそれぞれのやり方でやるからおもしろいのであって、日本が韓国のような試合をするとおもしろくなくなります。

でもおもしろかったですねえ、優勝候補が次々になりました。日本だったら中田が抜けたらシステムを変えと思いますが、フランスはジダンが怪我で抜けたらそのままジョルカエフを入れました。また、アルゼンチンもうまく行かないのに、パティステュータが抜けて後にクレスポをいれました。点を取るのにツートップでやればいいのにと思うのにそこに頑固さを感じました。

**下田:** 柔軟性が無かったと思います。優勝候補筆頭といわれた上のチームに限って自分たちの形にこだわりすぎると思います。宮城でスウェーデンがあればほど引いているのになぜアルゼンチンは中央突破しないのかと思いました。強いチームは保守的になりすぎて自滅したかなと思います。

**竹鼻:** 12月にここで私は、ポルトガルが優勝するといいましたが優勝できませんでした。まさか予選リーグで韓国に負けて敗退するとは思いませんでした。

FIFA ランキングでいうと、20~30位のチームの力が上がってきていたので、昔でいえば、予選リーグは足慣らしでコンディションを整えながら決勝トーナメントにベストコンディションに持っていくためにそこそこのサッカーをして決勝トーナメントが勝負だというのがありました。そんなことをしていたら予選リーグで負けるという事ははっきりしたのが今回の大会だったといえます。

**下田:** 一方でチームが増えすぎて、サウジアラビアはどうかと思います。ばらつきがあったと思います。

**ウー:** 韓国は予選リーグではあまりフォワードを投入してません。決勝リーグからです。これは16強になってもうなんでもしていい、いろいろやって世界を驚かそうという考えがあったと思います。その伏線として去年12月にアメリカに1-0で勝ち、フランスに2-3で負けるという拮抗した試合をやったことがあげられると思います。

自分たちの持っている力を充分出せば勝とうと負けようと韓国人は満足したと思います。記憶にも記録にも残りました。これからやる監督は大変だと思います(笑い)。

**竹鼻:** ジョージさん、イタリアやアルゼンチンなどの強いところがなぜ負けたと思いますか。

**エスピノサ:** メキシコ対イタリアは、エクアドル対クロアチアと同じ時間にありました。引き分けたことでイタリアとメキシコと一緒に決勝トーナメントに行ければいいという話もありましたが、それはだめです。行くためには勝たなければいけません。

**竹鼻:** 韓国対ポルトガルは、引き分ければ両方決勝トーナメントにいけたのに、韓国はパク・チ・ソンのゴールで勝ちました。アルゼンチンは自信持ちすぎですか。

**エスピノサ:** 持ち過ぎです。

**下田:** ブラジルが優勝すると予想した人少ないですよ。

**竹鼻:** ここに朝日新聞の優勝予想記事があります。記者と加茂さん、岡田さんが予想してますが、加茂さんと岡田さんは全部外れていますね。朝日新聞のサッカー担当記者7人のうち2人がブラジル優勝と予想しています。兼重さんと忠鉢さんです。忠鉢さんは中田の記事を書いた人です。

ブラジルがちょっといいかなと思ったのは国中がロマーリオを出せといったのにフェリペ監督が使わなかったことです。これは、中村俊輔を外すトルシエよりもずっと勇気がいります。ブラジルはそこでチームがまとまったと思います。

**下田:** 同じようなのがアイルランドです。ロイ・キーンはアイルランドの魂といっていますが彼がいないチームは最後まですばらしかったです。結束の持っていく方がうまかったところが上位にいったと思います。

**竹鼻:** 今回、個人の能力の高さが改めて見直されましたが、一方でチームワークや気持ちが高レベルでも大切なのだなと思いました。気持ちの高さはどのレベルのサッカーにも大事ななと思います。アイルランドはサッカーをやっていくうちに観客を味方につけるひたむきさがあると思います。

**下田**：知らない間に皆アイルランドファンになるんです。サポーターもすごかったです。スウォンでアイルランド対スペイン戦を見たときですが、シャトルバスの中で応援ソングを歌わせるような巻き込む雰囲気があります。サポーターの中に悲壮感がありません、楽天的なのが印象的です。

< 国際交流について >

**竹鼻**：これだけの規模の大会は我々が生きているうちにはもう無いと思いますが、どんな交流をされましたか。ジョージさん。

**エスピノサ**：メキシコのサポーターはたくさん来ました。5,000 人くらいいたかも知れませんが。宮城ではスタジアムの3/4くらいはメキシコの緑のユニフォームでした。

**竹鼻**：こういう仕事をしている割に平日に動けなくて、ナマでみたのは日曜日に行なわれたメキシコ対エクアドルの試合だけでしたが、あれは最高の雰囲気の試合でしたね。

**エスピノサ**：仙台駅で新幹線が着くたびにサポーターが「ウー、メヒコ、メヒコ」と言い続けているので、「シーッ、ここは日本だよ」と言いました。夜にはメキシコ人やアメリカ人、ヨーロッパ人もサンバサンバにきて皆で楽しみました。日本は新幹線などもあって素晴らしいと言っていました。評判は上がったと思います。メキシコのメディアは日本語が難しいと言っていました。

**竹鼻**：私は泉中央から行きましたが、メキシコのサポーターが駅前広場にたくさんいて、いつも広場で托鉢をしているお坊さんと写真を取ったりしてましてお坊さんが下向いて笑いを堪えてました。

シャトルバスの中でも歌を歌ってました。地下鉄ではウェーブをやっていたそうです。対戦国のエクアドルも同じスペイン語圏でフレンドリーでした。ただ、時間にはルーズでした。メキシコの放送関係者の来社や約束もアバウトでした。

ウーさん、日韓はもちろんですが、国際交流の点から何か活動されたことはありましたか。

**ウー**：私はやはり日韓を中心に活動しました。3 月に大崎地方の高校生をつれてソウルに行った時、スタジアムを見学しました。すると、見学しただけで大変盛り上がり拍手がおき、帰国後周囲からうらやましがられました。それを見てこれが国際交流かなと思いました。

お互いの国だけではなく相手の国を見ることによって日韓共通の意識を持てる人たちが増えていって欲しいです。共催でありながら相手の国に行って試合する事がなかったのが残念です。

韓国の新聞は毎日日本の事を載せていました。韓国の競技場に日本人も興味を持って欲しいですし宣伝がうまくかったので、韓国の方にリピーターが増えるのではないかと思います。

スター選手も生まれました。インチョン、クァンジュ、ソウルなどにはサッカーチームがありません。これが韓国の希望につながると思います。日韓では教科書問題などもあります。文化の開放にもつながると思います。ワールドカップは、見えない部分への大きな希望を与えたと思います。

**竹鼻**：シモは韓国にも行きましたが、国際交流の点をどのように捉えますか。

**下田**：韓国ではたくさんの日本人サポーターをみましたが、その逆が少なかった様に思えます。物価問題もあったと思います。外国メディアも言いましたが、日本は物価が高くて思ったほど外国人が来なかったと思います。

**竹鼻**：アルゼンチンもあの経済状態で来れなかったですね。

**下田**：その割に宮城スタジアムでは、ほとんどがアルゼンチンのユニフォームでしたけどね(笑い)。

**竹鼻**：あのように外国のユニフォームを着て応援する日本人が、外国からみると非常にめずらしいようだが、それも含めての日本人だと思えば悪い事ではないと思います。

**下田**：韓国でポーランド対アメリカ戦をみると韓国人が着ているのはビー・ザ・レッズのシャツですが日本ではレプリカを着てますね。その差はありますね。

韓国ではワールドカップを韓国が楽しんだと思いますが、日本ではそのイベントに燃えたという気がします。

辛口で有名なイギリスのメディアが各地でのホスピタリティを絶賛した事が誇らしく思えます。日本人の律儀さのような物が世界に伝わったと思います。

**竹鼻:** 息子がイギリスに今います。日本のホスピタリティが素晴らしかったとのこと。イングランドを日本が応援していた事もあるでしょうが、評価がすごくあがりました。サッカーの内容も評価が高かったです。

稲本や宮本が絶賛されていました。カーンの前に世界一のGKだったシュマイケルが、テレビで画面を指差しながら「このポジショニングの取り方だ」といって大絶賛していたそうです。柳沢の稲本へのダイレクトパスを「ファンタスティック タッチ」と呼んでほめていたそうです。

**下田:** 韓国のテレビは、同じカードを同じ時間帯に複数の局が並列してやっていました。競技を競技として伝える色は濃かったです。日本は極楽とんぼや松岡修三がでていました(笑い)。いかがなものかと思いません。今の話でイギリスでは、サッカーを「サッカー」として捉えてますが、日本では初めてサッカーを見る人がいっぱい出てきて、これは視聴率を考えているのだと思います。

**竹鼻:** 日本戦は、読み通りの視聴率が取れましたが、外国勢同士の試合でほとんど30%台の視聴率だったのは驚きです。くじで日本戦が当たったKHBと仙台放送は3試合を中継しました。くじで外れたミヤギテレビとTBCは4試合放送しました。

日本戦を中継する所が絶対得するだろうと業界の皆が思っていました。いざふたを開けると視聴率の合計の数が同じくらいになりました。これは驚きでした。韓国戦は40%くらいいきました。知らぬ間に韓国を応援していて、うれしさ半分、あ～あとという気持ち半分でしたね。

サッカーにずっと関わってきた私から言わせると、今まで韓国にはずっと負けていました。ようやく追いついて逆転したなと思っていたら、また違うじゃないかという思いがあります。そう言う意味のライバルとしての悔しさはかなりあります。

**ウー:** ほんとの韓国のスターは実はJリーグに所属しているのですよね(笑い)。ファン・ソン・ホ、ホン・ミョン・ボもいますね。みて楽しいのではないですか。

**竹鼻:** 去年、私達はJ2で京都のパク・チ・ソンを4回もみてますからね(笑い)、そういう意味での親しみはあります。

<4年後にむけて>

最後に4年後の話ですが、4年後に向けて何かしようと思っていますか。

メキシコのチームはどうですか。

**エスピノサ:** インターナショナルな勉強を重ねて頑張ってくれると思います。予選から厳しいかもしれませんが。

**竹鼻:** ウーさんはこれから4年間いかがですか。

**ウー:** チャ・ドゥリという選手がいます。いい名前ですね。3年前にスウォンでブラジル、日本とチャ・ブン・クン率いる韓国の少年3チームが試合をしました。監督の指導がそれぞれ違っていておもしろいなと思いました。日本がきれい、韓国がスマート、ブラジルが荒っぽかったです。

チャ・ブン・クンはフランス大会が終わって代表監督を辞めさせられました。組織を批評したからです。彼は少年チームを持っていますが、その後ドイツにいきました。これから、彼の所から優秀な選手がいっぱい出てくると思います。

チャ・ドゥリは彼の子供です。将来につながっていくと思います。日韓の子供たちの交流を少しでも手伝えたらいいなと思います。

**竹鼻:** 日韓共催で生まれたいろんな種を育てていかなければいけないですね。

**ウー:** 日本が韓国にいて交流するのはまだめづらしいです。もっと広がって欲しいです。

**竹鼻:** 日本と韓国は永遠のライバルですね。シモ、4年後に向けて話をしたいですが、ジーコはどうですか。

**下田:** 心配です。でも、ひとつやって欲しいのは、いいフォワードを伸ばして欲しいです。

僕は日本の黄金の中盤、稲本、俊輔、小野、中田をジーコ、ソクラテス、ファルカン、セレーゾと並べて言っていますが今の段階では少し違います。中盤のジーコ、ソクラテスはフォワードをしていますが、日本にはそういう選手がいません。

中盤タイプの選手が点を取る為にはどうしたらいいかというのをジーコが還元してくれるといいなと思います。仙台でいえば、財前がパスを出すだけではなくてストライカーにもなれるような感覚を育てて欲しいです。

**竹鼻:** フォワードが点を取りに行くのではなく、1.5列目、2列目が点を取るサッカーですね。日本人の身体能力からいって点を取りに行くフォワードを作るのは大変です。

**下田:** オーウェンのように光る若いフォワードがなかなかいないので、そういう選手をジーコが育ててくれたらなと思います。

**竹鼻:** 4年後に向けてまず、中国がでてくるでしょう。あの身体能力はアジア人の中では抜群です。アジアの枠は4もしくは4.5でしょう。韓国か日本のどちらかが行くアジア予選というのもあるでしょう。

**下田:** 専用スタジアムが多いのが韓国です。専用スタジアムがあると間違いなくそのチームは伸びます。そこをKリーグが使って活かしたらとんでもない事になるのではと思います。この4年間は微妙ですね。

**竹鼻:** 秋には、U-21のアジア大会があります。来年は、U-17、オリンピック予選、再来年はオリンピックがあり、それが終わるとワールドカップ予選が始まります。果たして、日本は順調に階段を上がっていくことができるかどうか、ジーコは日本人を良く知っていることでアドバンテージがあると思います。

ワールドカップは203の地域の人に参加し、殆どの人が思いをかけているスポーツだと思います。言葉を越えたコミュニケーションの手段がサッカーだったなと思います。

一方でFIFAはなんてマフィアなんだろうと思いました。いままで国際サッカー連盟というのはお上みたいな感じがしてましたが、あんなところとこれから何十年もやっていかなければならないのかとも思いますが、ミヤギテレビのスタッフが先日イタリアに行った時、ほとんどのイタリア人が仙台を知っていたそうです。

日本は、東京だけではなく仙台や新潟もあることを世界の人に知ってもらったと思います。

日本人も、外国というとアメリカだったのが、スペイン語やポルトガル語があって、世界にはいろんな国があっているんな考え方をしてる事を知ることができたという意味で意義のある大会だったと思います。逆にサッカーにあまり興味のないアメリカが変なのではないかと思うくらい、世界はアメリカだけではないのですね。日本の将来にとっても大きなプラスだったのではないかと思います。

**ウー:** 今、アメリカの話がでましたが、もしかすると4年後に北朝鮮がでるかもしれません。

**竹鼻:** サウジアラビアもヨーロッパとすると弱いアジアの中では強いです。そういう意味では、4年後を心配する前に3年後のアジア予選を心配しろということを今日のまとめにしてパネルディスカッションを終わりたいと思います。ありがとうございました。

(文責:野坂)

## 第2回 ワールドカップ フリートーク・フェスタ

### パネルディスカッション2「まつりのあと～宮城スタジアムとまちづくり」

2002年7月21日(日) 14:30～16:00

場所：ハーネル仙台

パネラー：浅野 智嗣氏(NPO 日本サポーター協会:横浜)  
 竹原 典子氏(埼玉ボランティア)  
 宮川 弘恵氏(横浜国際総合競技場ボランティア)  
 村松 淳司氏(利府町グランディ21 連絡協議会:宮城)  
 コーディネーター:阿部 清人氏(FM いずみアナウンサー)

**阿部 清人氏**(FMいずみアナウンサー):昨年(2001年)12月2日に開かれたフリートークフェスタで、「2002年6月にどんなことをしている自分を思い浮かべますか」の質問に「私は総合イベント会場にいるだろう」と言いましたが、全くその通りになり、全く試合を見ることができませんでした。テレビで2試合見ましたが、しらふで見た試合はありません。

今回で17回目だったが、ワールドカップを町づくりに生かしていくというのは、前例が無いだけに難しいです。第2部では、ピッチ以外のワールドカップを振り返ってみたいと思います。大会が終わっての心境を皆様に伺いましょう。まず、浅野さん。

**浅野 智嗣氏**(NPO 日本サポーター協会・横浜):いろんな事を言われるが、僕はこの大会は大成功だったと思います。理由は、僕が楽しかったから。これは大切だと思う。ただ、反省点もあるがおいしい、話していきたいです。

**阿部**:続いて埼玉でボランティア活動をしている竹原典子さんです。

**竹原 典子氏**(埼玉ボランティア):こんにちは、埼玉でJAWOCボランティアをしました。今回は1998年に果たせなかったアルゼンチン戦を宮城で見られて幸せでした。

**阿部**:次に、横浜国際総合競技場ボランティアで、浅野さんと同じようにJSAでも活動をしている宮川弘恵さんです。

**宮川 弘恵氏**(横浜国際総合競技場ボランティア):期間中体調が悪くて苦労したが、横浜でJAWOCボランティアをして決勝戦でツルが舞うのを見て感動しました。その後、虚脱感に襲われましたが、今はJリーグに戻って楽しんでます。

**阿部**:最後に、利府町グランディ21連絡協議会の村松淳司さんです。

**村松 淳司氏**(利府町グランディ21連絡協議会・宮城):今日は、キックラブではなくグランディ21連絡協議会の事務局長として話します。個人的にはチケット問題で取得に苦労したが、あらゆる手段を使って2試合見に行く事ができた。楽しかったです。

**阿部**:村松さんは、昨夜仙台放送であった番組に出られました。「宮城スタジアムをぶっ壊せ」という題だったのですが、あれは、既成概念をぶっ壊せという事だったのですね。

**村松**:そうです。

**阿部**:最後にコーディネーター、FM いずみの阿部です。主にベガルタ関係で仕事をしています。日曜日夕方「キックラブコーナー」という番組もやっています。今日も日曜生放送なので15:45きっかりにを終わらせます。(笑い)

< ワールドカップ期間中の過ごし方 >

それでは皆さんに、ワールドカップ期間中どのように過ごそうと思ひ、またどのように過ごしたか報告を兼ねて伺います。浅野さんは、全国見てまわられたのですか。

**浅野**: 日本は、宮城、埼玉、横浜、大阪、大分です。韓国はウルサンとソウルです。

**阿部**: JSA の名前を初めて聞く人のために、JSA を説明してください。

**浅野**: スローガンは、ワールドカップを市民参加型の大会にしようと 3 年前から活動をしてきました。

**阿部**: 全国組織ですか。

**浅野**: 会費を払っているメンバーが約 30 人、基本的に首都圏です。

**阿部**: メンバーの皆さんは期間中どのように過ごされましたか。

**浅野**: 把握してません。というのは、市民参加云々の根底には自分自身が楽しむということがあるので我々の活動は 5 月 31 日に終了してしまひ、開催期間中は徹底的に楽しみました。

**阿部**: ということは試合を堪能してきたわけですね。

**浅野**: そうです。宮城では、スウェーデンとアルゼンチンの試合をみました。堪能しました。

**阿部**: 試合会場はもとより、それ以外の周辺でなにか楽しみはありましたか。

**浅野**: 大会期間中に、写真家であり作家である宇都宮徹壺さんの「サポーター新世紀」の活動を市民レベルでもしようと全会場で活動を行ないました。200 枚の写真とアンケートが集まりました。サポーターと遊ぶこと、僕の言い方では「サポーターをいじる」というのですが、それをずっとやってました。今着ている服は 1900 円の T シャツと交換にメキシコのサポーターからもらったレプリカです。相手から交換してくれと言われたので、紳士的な交換をしたと思ひます。

**阿部**: 照れくさく無かったですか。

**浅野**: 写真を撮るのと違って時間がかかるのでコミュニケーションをとるのが照れくさかったですが、「イングランド カモン」のようにその国のことばで「がんばれ」という意味の言葉をいうとやりやすかったです。

**阿部**: 具体的にどのようなアンケートでしたか。

**浅野**: 昨夕、何を食べましたかというようなことから、どこの国が勝ちますか、開催地の印象はどうか、ワールドカップはあなたにとってどういうものですか等 10 項目くらいです。スペイン語とかわからないですが、書いてもらいながら「イエス」とか「うんうん」とか言ってコミュニケーションを取りました。

**阿部**: では、交流の輪は随分広がった訳ですね。

**浅野**: ワールドカップは 1 日限りのことなので、試合が始まるともう終わったかというような気持ちでした。気がつくと、どうしてアルゼンチンが負けてしまったのかなと思ひます。

**阿部**: 総合的にワールドカップ全体を楽しんだ浅野さんでした。続いて竹原さん、この 1 ヶ月いかがでしたか。

**竹原**: JAWOC のボランティアをやりました。普段は浦和レッズのボランティアもやっています。

本場のものを見ておこうと 1998 年フランス大会に行きました。チケット問題に巻き込まれて日本対アルゼンチン戦は見る事ができませんでした。外の大画面でみました。ブラジルの試合はみました。

今回ワールドカップが迫ってきて、1999 年頃何かできないかと探し始めて、浅野さんの活動も見に行きました。当時埼玉は、浦和レッズの J 降格で精一杯でワールドカップにまで手がまわりませんでした。私も一生懸命やってもなにもならないのではという思いがあつて、各地のチームのボランティアや応援している人に会いに行こうと思ひ個人で取材を始めました。お陰で、自分の J リーグのチームを盛り上げたい気持ちと、ワールドカップを盛り上げたいという両方の気持ちが出てきました。

昨年、埼玉スタジアムがこけら落としの折に、このスタジアムを盛り上げたいという気持ちからフットサル大会を実行しました。その後、どちらもやりたかったがひとつに絞って JAWOC のボランティアをすることで 6 月が始まりました。

4 試合とも参加しました。1 試合目はイングランドでした。浦和の人はイングランドを大変楽しみにしていました。イングランドは、ヨーロッパのあちこちでトラブルを起こしてそれが浦和と似てて、「私たちがイングランドを応援するしかない」という気持ちで 6 月 2 日を待ち望んでました。

初めは怖いというイメージでしたが、最寄の駅でイングランドサポーターをみた瞬間それがなくなりました。刺青入れて、体格が大きい人が電車の中で私に席を譲ろうとしてくれました。試合時はイングランド側 1 次ゲートで、持ちこめない物を捨てる役割をしていました。お客さんの一番醜いところが見えてしまう係でしたが、事前に本国で言われてきたせいも素直でした。

**阿部:** どんな物が持ちこまれましたか。

**竹原:** ワールドカップトロフィーのレプリカ、多分紙でできていると思いますが、X 線を通せないで困り、係の人を呼んできてイングランド出国の際に大丈夫だったからいいだろうと OK になりました。また、スウェーデン人のエリクソン監督にスウェーデンのタオルマフラーを巻いてスウェーデン人が持ちこんだ事はマスコミで有名になりました。

**阿部:** 日本の初戦も埼玉でしたね。

**竹原:** 私が一番へこんだ試合です。日本戦のボランティアは一生やりたくないと思うくらい悲しい思いをしました。4 回あった試合で捨てるべき物がその都度違うわけですが、日本戦が一番厳しい対応をしました。紙パック容器もストローをさして開封状態で対応したが、日本人に詰め寄られてかなりいやな思いをしました。「知事を出せ」と詰め寄せられたりしました。

次のカメルーン戦はお客さんが試合が始まって 30 分くらいしてくるようなゆっくりした感じでした。

最後の準決勝は、大変思い出に残りました。大人のワールドカップという感じで観客の層が全く違いました。

**阿部:** 4 試合やってサポーターも慣れてきたという感じは受けましたか。

**竹原:** あまり感じませんでした。J リーグとは客層が違います。ボランティアが慣れたという面で変わったとは言えます。

**阿部:** 横浜は決勝が行なわれたのですが、宮川さんは 4 試合すべてに関われたのですか。

**宮川:** はい。ボランティアの始まったのが、6 月 9 日の日本対ロシア戦で、その前はとても静かだったです。実践の最初が日本戦でしたので、反省や後悔があります。お客さんは慣れているのに私たちが慣れていませんでした。観客席の青い波を見た時には鳥肌がたちました。浮き足立っていた面があります。

**阿部:** いつもと違うという事は、それ以外にもされている訳ですか。

**宮川:** 横浜国際競技場のボランティアは 1999 年から行なわれていてますが、J リーグの横浜マリノスの試合や市民大会でも活動をしています。発足当時は 300 人の定員に 800 人くらい応募があり、皆受け入れて始まりましたが、毎年更新し今は 300 人に落ちついています。

自主的な活動もしてます。スタジアムボランティアと JAWOC ボランティアはダブっている人が多いです。

**阿部:** では、スムーズに行ったのですか。

**宮川:** 慣れという面があるので、よかったと思います。JAWOC のボランティアが初めてだった人もだんだん慣れて行きました。

**阿部:** ではこれから、JAWOC ボランティアの中からスタジアムボランティアをしたい人もできますね。

**宮川:** 最初以来募集を止めていたので、どうなるかわかりません。8 月に障害者サッカーの大会がありますのでそのまま続ける人もいます。ワールドカップで燃え尽きる人もいるのでこればかりは増えるかそうでないかわかりません。

**阿部:** 宮川さん自身は楽しめましたか。

**宮川:** 新潟のデンマーク対イングランド戦を見に行きました。追加販売でチケットを手に入れたのです。新潟も最後の試合だったので雰囲気良かったです。ほとんどがイングランドの応援をしてました。リードしたイ

ングランドのサポーターが踊っていて、観客としてボランティアの時と違う楽しみを感じました。

**阿部:** ボランティアも試合も両方堪能した宮川さんでした。では村松さん、1ヶ月といわずずっと前から忙しかったと思います。

**村松:** 2年前のキリンカップから忙しかったです。その後、Jリーグオールスター、国体、障害者スポーツ大会があって今回のワールドカップです。

グランディ 21 連絡協議会というのは、前はワールドカップ対策協議会といいました。目的は観客輸送や警備などいろんな対策です。その次としてホスピタリティもありました。

宮城スタジアムは住宅街の中にあります。日常生活を送る我々の中に異文化がくることでどうしようかと思いました。キリンカップの時に情報が無くて住民パワーでやるしかないと始めました。僕自身は、昔からサッカーが好きでしたが、自分の身に振りかかるとなると話が変わってきます。

隣にくることのギャップに悩まされました。殆どは情報不足による得体の知れない不安です。一方で脅威を感じる観客に一方でホスピタリティを發揮する事の矛盾を宮城県に指摘され、いろいろな仕掛けを諦めざるを得なかったです。

利府町、宮城県、仙台市などの行政、また警備などと話し合いを重ねて最終的にあのような輸送態勢になりました。6月30日にうまい酒を飲めなかったというのはその部分です。

ただ、日本戦では少し活動できました。日本とトルコの国旗を作ったり、町内の小学生がカードを作って皆に配りました。また、利府町で禁止されたクローズドサーキットをやり、サポーターもきました。報道は完全に抑えました。もう言っても大丈夫でしょう。電通が先日「告発しない」と書いてあったのであれをみて安心しました。(笑い)多少不満は残るができる事はやったと思います。

**阿部:** 村松さんは、利府町の町内会の役員をしていて、お子さんが4人いて、キックラブにも所属していて活動は使い分けされて、苦しい部分もありますね。カーサベガルタでみた決勝戦で村松さんが寝ていた様に見受けましたが、疲れていたのですか。

**村松:** 私はドイツを応援してました。点を取られて気が緩んで寝てしまいました。2試合見たゲームでは、メキシコを好きになりました。断片的にしか覚えていませんが、同点に追いついたアルゼンチンが試合終了の笛と共に、パティがゴール近くに寝転んだのを覚えてます。

**阿部:** 私は殆どイベントに関わっていません。イタリアの練習試合の時も近くの商業施設で活動してました。

6月8日から18日まで勾当台公園のサッカーパークで放送をしてました。放送中に試合がある訳ですが、皆、大型映像があるだろうと思ってきていました。仕事の中の人も多かったです。

特に決勝トーナメントの日本戦があった日は雨の中大勢の人が、映像がなくて拍子抜けしたと思います。もったいない事をしたと思います。

外国人の人はフレンドリーでした。広場での生放送中に飛び入りして応援歌を歌い始めたエクアドル人もいました。

< 今後について >

続いては、祭りの後どうしていくかですが、この後、どうするか考えのある人を伺います。横浜はそういう意味では活動しやすいですね。

**宮川:** Jリーグのファーストステージが続いてますが、横浜国際競技場は改修中で使っていません。

**竹原:** 横浜は市がボランティア活動をバックアップしてきたと思いますが、自主的な活動でどんな委員会が始まりましたか。

**宮川:** 研修会から始まり、交流を深める会報を編集して交流が広がりました。最初は警備会社に使われている感じでしたが、リーダー制を取り入れる事で活動が広がりました。もっと組織化していきたいです。

Jリーグマニュアルも作りました。リーダーが集まったりはしていますが、ワールドカップが終わってからの

全体の集まりはまだありません。

**阿部:** 埼玉は浦和レッズのボランティアにうまくつながっていますか。

**竹原:** まだ、過渡期です。大きなスタジアムで、駒場では 50 人くらいでやっていましたが、先の磐田戦は 150 人くらいで活動しました。新しい物に慣れるのには少し時間がかかると思います。

今年、浦和が主催してホームタウンサミットを行ないます。ホームタウンが根付く事で J リーグがうまく行くという湘南ベルマーレから始まりました。今年で 4 回目です。去年磐田でありましたが、世界に進出しよう、その為にホームタウンも強化しようと、戦略的でした。その際、2002 年の開催地に、後援会でも会社でもないボランティアである私がやると言っていました。次の日に皆に了解をもらいました。

埼玉は外から見るとまとまっている様に見えますが、チーム、行政がうまくいってないです。が、今年オールスターの日に行なうので楽しみにしています。ベガルタも、来年あたりやったらいいのではと思います。

**阿部:** 宮川さんから横浜国際競技場、竹原さんから埼玉スタジアムについて話がありましたが、その施設はこれから生かされそうですか。

**宮川:** できあがったのが 4 年前で毎年赤字と言われていますが、ワールドカップまでは我慢してくれたと思います。コンサートなども最近は行えず、大変だと思います。この先、トヨタカップも決まり、横浜市というよりもっと大きな所で考えているような部分があります。

当初はなかった愛着も今は自分たちの場所として持てるようになった。毎年、市の行事も行なわれています。

**竹原:** 埼玉スタジアムは、J リーグの場合 34,000 ~ 35,000 人くらいですが、収容人数の 60,000 人というのは厳しいです。

ワールドカップ後に行なわれた 57,000 人入った試合で負けたのは残念です。決勝誘致で横浜に負けたのは政治力が無いからだだと思います。そのへんがどうなりますか。

浦和美園駅周辺も開発されて変わるでしょう。ボランティアとしてどう対応するかが課題だと思います。サッカーだけでは厳しいので商業施設ができることは必要です。

**阿部:** 村松さんが、宮城スタジアムをぶっ壊せと言っている事についてどうですか。

**浅野:** 村松さんとの出会いは、2 年前キリンカップの悪口を言ったことからです。

今回はキリンカップ時と違って JR 利府駅に臨時ホームができていて、また臨時バスもでていて驚きました。

行きはスムーズで 2 年前よりは印象がよかったです。宮城スタジアム前の広場は他会場にはないもので、そこで早い時間からサポーター達と楽しめました。イベントというのは作るだけではなく、来る人が勝手に盛り上がるのもあるでしょう。

宮城スタジアムの今後については、我々が考えるのではないと思います。宮城の人が宮城スタジアムをどの様に使っていかのか考えるべきだと思います。りっぱな仙台スタジアムもあるでしょう。僕達が口出しする問題ではないです。

**竹原:** 愛着があるかないかでしょう。埼玉スタジアムも最初はよそのような感じがしましたが、ワールドカップに関わって愛着が沸きました。今は壊して欲しくないです。宮城スタジアムに関しても同じでしょう。地域の人が決める事だと思います。

**宮川:** 同じく愛着だと思います。マリノスのサポーターも愛着を持ちつつあります。

**阿部:** となりの宮城スタジアムには愛着がありますか。

**村松:** 1996 年に工事が始まっていわゆる愛娘です。国体仕様で開始した工事を 1998 年にワールドカップ仕様に変更しました。その経緯を知っている事も含めて愛着はあります。

宮城の試合前日の 6 月 8 日にいつも見る場所から競技場を見たとき何重もフェンスに囲まれて様変わりしていました。

愛着も程度問題だと思います。宮城県はすごい赤字を抱えているので中途ハンパに使って欲しくありません。

仙台スタジアムで試合をみると他では見られないくらいです(笑い)。屋根が全部ついていて贅沢の極みです。トイレの設備もいいです。ですから比較されると宮城スタジアムがかわいそうな感じがします。

**阿部:**村松さんの場合、無駄だからなくそうというのではなく、固定概念を変えるということですね。

**村松:**9月にSMAPのコンサートがあります。住民側、イベント側、スタジアム側と3者で計画を立てています。ひとつの方向を示せるかどうかかわかると思います。

10月20日に磐田戦があります。浦和戦での悪い印象、更に日本戦の印象からして、これは勝たなくてはいいないと思います。

キッククラブでスタジアムボランティアの話が出ています。地元町内会はウェルカムです。いろんな人がボランティアはしたいのにその受け皿がないです。宮城県はやる気がないみたいです。そこをキッククラブがやってくれると良いなと思います。

**阿部:**この後、発表されるキッククラブビジョンでその辺も踏みこんでいくでしょう。村松さんは、宮城スタジアムを壊さない為の提案をホームページでされていますが、反響はいかがですか。

**村松:**半々です。交通問題はわかっていたことです。建物を作ってしまったから交通アクセスの事を考えるのが宮城県でしょう。

ベガルタの試合で1億円掛けてシャトルバスを走らせるのは大変でしょう。通常的な交通手段が必要です。駅からの距離としては新潟とはいい勝負です。新潟に多数の観客が入る事を思えば、宮城スタジアムでもできない事はないと思います。

**阿部:**日本が初めて決勝トーナメントを戦った場所として歴史に残る場所です。3試合で137,000人が利府を訪れました。

**村松:**日本が来るとはあまり予想してなかったですが、宮城スタジアムを考える上では非常に良かったと思います。愛着も含めて我々県民がどう考えていくかですね。

**阿部:**年間で維持費が2億8000万円、建設費は270億円掛かっています。物理的にではなく、考え方を壊していくことも必要かと思います。宮城県民としてほこりを持って、それを町づくりに活用していきたいと思います。

**浅野:**ひとことだけ。2年前のこけら落としのキリンカップ時、仙台のいろんな人が日本代表がくることを待ち望んでいるのを知って、その気持ちがあればなんとかなるのではないかと思います。是非その時の気持ちを持ちつづけてください。

**阿部:**今が、そのチャンスだという事ですね。動き出す必要があるでしょう。どうもありがとうございました。

(文責:野坂)

## 第2回 ワールドカップ フリートーク・フェスタ

### キックラブ・アクティブ ビジョン 発表

#### ～今後のキックラブ・アクティブの活動について～

2002年7月21日(日) 16:00～16:30

場所：ハーネル仙台

発表者：泉田 和雄(キックラブ・アクティブ代表)

こんにちは、私はキックラブ・アクティブの泉田です。今後、いろいろ活動を考えていますので組織の見直し等はこれからやりたいと思いますが、現在、代表をしています。

キックラブとして過去2年間、2002年にむけて活動をしてきました。その一部をご紹介しますと思います。

まず、キックラブ立ち上げの経緯ですが、他の開催地とは事情が異なると思います。宮城の場合は、ワールドカップ推進局が県民・市民を対象にして、メンバーを募集した団体です。予算は推進委員会から提供を受けていました。メンバーの第1号は浅野知事だと思いましたが、全部で400名くらいが所属していました。実際には、その中の20～30名のメンバーが中心になって活動しています。

そもそもの目的が、ワールドカップを市民に広報する、またワールドカップを盛り上げるという事でしたのでイベント中心でやってきました。大きなものとしては、昨年の12月1日のファイナルドローを受けて、この会場を使ってフリートーク・フェスタの1回目を開催いたしました。その他、推進委員会、利府町などの各種イベントに参加する活動をやってきました。また、ワールドカップに向けた情報発信をキックラブのホームページやキックラブニュースを使って行なってきました。イタリアがキャンプ地に仙台を選んだ事で、イタリアを含めての勉強会もいたしました。今回パネルディスカッションに参加頂いた浅野さんは第2回のワールドカップセミナーの講師です。それ以来のお付き合いです。

活動をまとめてみますと、ほとんど毎月、2・3つのイベントをやってきています。大変多くの事を積み重ねてきた気がします。これから代表的な物を説明しますが、自主的に企画し運営する事が基本でした。従って、大半のメンバーが率先して活動する気風ができていますので、今後には是非役立てていきたいなと思います。それ以上にここまで非常に多くの方に支えていただいたことも現実です。ここにお集まりいただいた皆さんや、他開催地の皆さんとのつながりが大きいと思います。

今までの活動ですが、昨年2月はメディアテークでの宇都宮さんのイベント、1年前イベントは宮城スタジアムで行ないました。ここではスタジアム見学ツアーが大変人気がありました。私達が考える以上にスタジアムを見学したい方は多いと思います。これに応える事も宮城スタジアム活用の大事な視点だろうと思います。一方で仙台スタジアムで毎年行なわれている「仙スタ祭り」にもキックラブとして参加しました。各地で話題になった車椅子サッカーにも参加、お手伝いをしました。開催地である利府町でもイベントをいくつかいたしました。

キックラブが主催したイベントでは、シェルコム仙台で行なったフットサル・フェスタがあります。在仙の留学生などを招いて試合を行ないました。去年はイングランド、今年はブラジルが優勝しました。これは来年以降も続けたいと思います。また、昨年末のフリートーク・フェスタでは、基調講演にサッカー解説者の松本育夫さんを招き、その後3つの分科会に分かれてパネルディスカッションを行ないました。

そのような活動を通じてキックラブとしてワールドカップに向けてやってみたいことを「キックラブ・ビジョン」としてまとめました。夢は数多くありましたが、現実的な対応も含めて、形を変えながら半分以上の事を実現できたと思います。

今年、6/8～6/18までサッカーパークが勾当台公園で開かれました。その中で、宮城スタジアムの芝入りお守り、(今日後ろにありますのでよろしかったらお持ち下さい)、また、ラッキーチャレンジカード、挨拶をまとめた用語集などを配布したり、フェイスペインティングを行なったりしました。

他方、JSAのサポーターウェブとの連動で情報を集めて宮城から発信をしたりしました。サッカーパークで配ったのは宮城で試合をやる前の芝でしたが、今日配るのは、もしかしたらパティステュータが涙を流した芝かもしれません(笑い)。フェイスペインティングは無料のこともあって非常に好評でした。メンバーの発案で始まったこの企画は、最後にはメンバー全員がペインターになれるくらい成長したと思います。用語集は三浦折りという難しい折り方に挑戦しています。(ここまでサッカーパーク展示物のスライドを使用しながらの説明)

今後についてですが、ワールドカップが終わってこのまま活動を停止するのはもったいない、またこの折にできたいろんな人とのつながりを活かしていきたいと思います。

今まではワールドカップというキーワードがありましたが、これからは、会員の親睦を図りながら、宮城県で作成中の長期計画にある「市民スポーツを支える」即ち、「見る」「する」「支える」スポーツの、「支える」部分が認知される文化ができてきたと思うのでその部分で「スポーツボランティア」をキーワードに活動したいと思います。

ワールドカップで生まれた「国際交流」の部分も大事にしたいです。韓国のクアンジュと仙台市は姉妹都市です。クアンジュにはKリーグのチームはまだありません。できた時には、ベガルタ仙台との交流の場を持ちたいと思います。

次に「サッカー」もキーワードです。仙台にはベガルタ仙台があります。サッカーを通じた活動をしていきたいと思っています。「スポーツボランティア」に関しては、具体的行動として、自分たちで発案をして自分たちで活動をするスポーツボランティアが国内に何箇所かありますが、宮城スタジアムにもそのような制度を作りたいと思っています。ベガルタボランティアの方との連動もぜひやっていきたいと思っています。フットサルフェスタのように、自分たちで考えて、行動して、参加することも続けたいです。

問題は資金です。資金は今ありません。みなで知恵を出し合って実現したいと思います。2006年のドイツ大会に向けて夢を追いかけていきたいのでこの部分に関しても地道に考えていきたいと思っています。

これからも、自分たちのレベルアップを図るために多くの方の力を借りて向上したいと思います。今までは推進委員会の力でやってきましたが、これからは自主独立になります。資金的後ろ盾もなくなります。どのような形で活動していくか、NPO化も含めて検討していきたいと思っています。培ってきたネットワークもより活かした方向性で活動を進めたいと思います。

先般、JAWOCボランティアにアンケートをお願いしました。「今後どのような活動をしたいですか」と質問した所、約半数の方が「ボランティア」もしくは「スポーツボランティア」をしたいといわれました。また10数パーセントの方が、国際交流や語学をやりたいといわれました。多くの方がなんらかの形で今後に関して気持ちを持っているのだと思います。いい意味でキックラブ・アクティブが役に立てたらいいなと思います。

最後に、1回目のセミナーに長野オリンピックボランティアを組織化された中島さんに話を伺いましたが、その方の結びのことば、「何かを手に入れるためにボランティアになるのではなく、ボランティア活動することにより自分がどれだけ成長するかということで活動に参加するのである。ボランティア活動は様々な面で有益である。人生を変えるほどの経験をする可能性を秘めている。ボランティア活動を通じて一生続く友情と思い出を十分すぎる報酬として手に入れることができた。」とのことばがあります。

お金を費やす事はあってもお金での見返りは当然ありませんが、それでもこれだけの広がりを持たせて訳です。

今後も皆様の絶大なご協力をお願いいたします。本日はお忙しい中ありがとうございました。

(文責:野坂)

## キックラブホームページの記録

## 1. ホームページの概要

ホームページ URL(Uniform Resource Locator): <http://www.c-marinet.ne.jp/~kaz/>

ホームページの設置日： 2000年12月10日

設置日から2002年6月30日までのアクセス総数 = 概算 50,000件

ファイル数 約 4,500、全ページ容量 = 約 500 MB (2002/6/30 現在)

## 2. ホームページの変遷

	
<p>2001年3月19日改訂版 この頃、メンバーページ、イベントページなどが充実していった。</p>	<p>2001年6月の運営委員会でホームページを英語化することを決定。 そのため、2001年7月4日付で更新したホームページはトップページが英語版となり、この方針は2002年6月30日まで継続される。</p>
<p>この頃の話題： 低迷するワールドカップ熱を県民、市民に浸透させようと、種々の気運醸成イベントを計画。その告知が多くページを飾る。</p>	<p>この頃の話題： 運営委員会で集まる顔触れが固定してきたことから、企画立案を効率的に行うようになる。</p>





2002年6月18日付ホームページ。  
ワールドカップが開幕して19日。毎日更新で、最新の情報をホームページが伝えた。トップページはもちろん、英語版であった。  
なお、この日は日本中が注目する日本 - トルコ戦があった。

2002年6月26日更新のホームページ。  
あと4日でワールドカップも決勝戦を迎え、長いようで短かった熱い戦いも終わる。  
と、同時にキックラブも解散する。

この頃の話題：  
キックラブは仙台市勾当台公園の Miyagi Sendai Soccer Park 内に「ファンビレッジ」を設置。6月8日から18日までの19日間、連日多くの人々がブースを訪れ、Soccer Park 内で最も多くの人々が訪れたブースとなった。

この頃の話題：  
決勝戦をカーサベガルタで見よう、という臨時イベントが密かに進行した。多くのキックラブと友人が集まり、ドイツ - ブラジルの決勝戦を堪能した。

**キックラブ・アクティブ**  
2002年7月改訂

**● 第2回ワールドカップフリートク フェスタ**  
主 催：キックラブ・アクティブ ワールドカップ宮城 46社友の会 キックラブ！  
主 席：2002年FIFAワールドカップ宮城 仙台市市長 佐藤 元  
実行委員会：佐藤 元（委員長） 藤田 隆（副委員長）

日時：7月21日（日）10～18時  
場所：宮城スタジアム  
〒981-8511 宮城県仙台市青葉区中央1-1-1  
〒981-8511 宮城県仙台市青葉区中央1-1-1  
〒981-8511 宮城県仙台市青葉区中央1-1-1

プログラム

10:00～10:30 **ワールドカップを振り返って！**  
パネラー：ジェフユナイテッド 大石洋一、ケー・ケイ・ケイ 藤田 隆、下野将典、仙台市長 佐藤 元、アライズ 藤田 隆、仙台市長 佐藤 元、アライズ 藤田 隆

- ワールドカップの歴史と、ふたつの感動
- 感動の瞬間
- 仙台、感動の瞬間を振り返る
- 2002年ワールドカップについて

10:30～11:30 **宮城スタジアムとまちづくり**  
パネラー：尾花 隆雄 会長、佐藤 元 市長、宮城スタジアム 佐藤 元、仙台市長 佐藤 元、仙台市長 佐藤 元、仙台市長 佐藤 元

- 仙台、感動の瞬間を振り返る
- 宮城スタジアムとまちづくり
- 宮城スタジアムとまちづくり
- 宮城スタジアムとまちづくり

11:30～12:00 **キックラブの活動について**  
今後のキックラブの活動について  
キックラブの活動について

※会場情報：**ファンビレッジinフリートクフェスタ**

- 宮城スタジアムの案内
- ファンビレッジ
- ライブパフォーマンス

お問い合わせ

2002年7月19日改訂  
仙台市青葉区中央1-1-1 宮城スタジアム 仙台市市長 佐藤 元  
〒981-8511 宮城県仙台市青葉区中央1-1-1  
〒981-8511 宮城県仙台市青葉区中央1-1-1

**ワールドカップ宮城 仙台 キックラブ**  
解散のお知らせ

キックラブ会員のみなさんへ

ワールドカップ宮城 46社友の会 キックラブは、8月13日の2002年FIFAワールドカップ宮城開催をもって解散となり、みなさんの活動の場として引き続き活動させていただきます。みなさんの活動の場として、宮城県W杯推進局と連携し、8月13日の決勝トーナメント会場では日本代表の応援もさせていただきます。

また、キックラブ会員有志で立ち上げたキックラブ・アクティブは、大会期間中、仙台市公園に開設された「FIFAワールドカップ仙台」にキックラブ・アクティブは、宮城スタジアムの案内（配布）、無料ライブパフォーマンスなどを実施、ブースはいつもお泊りしていただき、大層です。

なお、キックラブ・アクティブはキックラブ推進局も独自に活動も継続し、7月21日には、下記の「第2回ワールドカップフリートクフェスタ」を開催いたします。興味のある方は<http://www.kicklab.jp/>、<http://www.kicklab.jp/>、またはFAX022-761-2666までお問い合わせください。

お問い合わせ

**キックラブ・アクティブ**  
2002年8月13日改訂

**キックラブ・アクティブ・ミーティング**

日時：8月13日（日）13:00～18:00（17:00まで有料可能）  
場所：宮城スタジアム 宮城県 仙台市 宮城スタジアム 仙台市長 佐藤 元  
〒981-8511 宮城県仙台市青葉区中央1-1-1



● 第2回ワールドカップフリートクフェスタ  
終了しました。今後のページはこちら

**キックラブ・アクティブ・セッション**  
今後のキックラブ・アクティブの活動情報  
2002年7月21日発表 第2回ワールドカップフリートクフェスタにて

**ワールドカップ宮城 仙台 キックラブ**  
解散のお知らせ

キックラブ会員のみなさんへ

ワールドカップ宮城 46社友の会 キックラブは、8月13日の2002年FIFAワールドカップ宮城開催をもって解散となり、みなさんの活動の場として引き続き活動させていただきます。みなさんの活動の場として、宮城県W杯推進局と連携し、8月13日の決勝トーナメント会場では日本代表の応援もさせていただきます。

また、キックラブ会員有志で立ち上げたキックラブ・アクティブは、大会期間中、仙台市公園に開設された「FIFAワールドカップ仙台」にキックラブ・アクティブは、宮城スタジアムの案内（配布）、無料ライブパフォーマンスなどを実施、ブースはいつもお泊りしていただき、大層です。

なお、キックラブ・アクティブはキックラブ推進局も独自に活動も継続し、7月21日には、下記の「第2回ワールドカップフリートクフェスタ」を開催いたします。興味のある方は<http://www.kicklab.jp/>、<http://www.kicklab.jp/>、またはFAX022-761-2666までお問い合わせください。

お問い合わせ

2002年7月19日改訂のホームページ。  
キックラブは解散したが、活動はキックラブ・アクティブとして継続する、という運営委員会決定により、キックラブとしては最後のイベントを計画。それにしても「解散」という文字が寂しい。

2002年8月13日改訂のホームページ。  
宮城県W杯推進局から離れて独り立ちした、キックラブ・アクティブ最初の会合を宮城スタジアムで行うことを決定。今後の方針を話し合うことになる。

この頃の話題：  
第2回フリートクフェスタと、第2回宮城ワールドカップの集いの開催が継続性のある活動を示唆した。だが、参加者は必ずしも多くなく、急速にさめていくW杯熱に、W杯は過去のものとなったという感を強くした。

# ファンビレッジ in Miyagi-Sendai Soccer Park

2002/6/8 ~ 18 by ワールドカップ宮城・仙台友の会「キックラブ」

## 10開催地情報ネットワーク

インターネットで10開催地を直結！  
各開催地へのアクセス、現状の状況をリアルタイムに受信。  
協力 = 10開催地ネットワーク

## Lucky Card Shrine 幸運神社

赤い鳥居が目印の幸運神社。  
サッカーボールが鎮座してあなたの運勢を判断します。  
幸運神社では、おみくじをひいて、ラッキーカードをゲットできます。さあ、仙台市内へくりだそう。有名選手とばったり、なんてことが。。

## 宮城スタジアムの芝入り御守り

宮城スタジアムの本物の芝を乾燥。それを御守りとして配布します。  
御守りは日本伝統の折り紙で作った小さな入れ物。これを持ったらあなたにも宮城スタジアムのご加護が。。。



## フェイスペインティングサービス

あなたの好きな国の国旗を頬に入れて貰おう！  
これで僕らは熱血サポーター気分だ。

## その他、キッズイベント、各国用語集配布など

WorldCup 情報はキックラブ HP で <http://www.c-marinet.ne.jp/~kaz/japanese.html>

## メーリングリストの記録

### メーリングリストの概要

メーリングリストの目的： キックラブ会員相互の情報交換、親交のため。また、キックラブの対外的な窓口として機能。

メーリングリスト名：キックラブメーリングリスト kiclub@iamp.tohoku.ac.jp

メーリングリストの設置日： 2000年12月27日

メール数： 1,030通

登録メンバー数： 37名(2002/6/30現在)

メーリングリスト閉鎖日： 2002年7月31日

### 世話人専用メーリングリスト

メーリングリストの目的： キックラブ世話人と推進委員会の調整機関

メーリングリスト名：キックラブコアメーリングリスト kc-core@iamp.tohoku.ac.jp

メーリングリストの設置日： 2001年1月28日

メール数： 386通

登録メンバー数： 5名(2002/6/30現在)

メーリングリスト閉鎖日： 2002年7月31日

### フリートークフェスタ用メーリングリスト (継続中)

メーリングリストの目的： フリートークフェスタ開催のための事務連絡。その後、キッククラブアクティブメンバー相互の情報交換、意見調整のために変化した。非キックラブ会員も参加し、多彩な話題で議論中。

メーリングリスト名： フェスタメーリングリスト festa@iamp.tohoku.ac.jp

メーリングリストの設置日： 2001年11月12日

メール数： 1,170通(2002/8/13現在)

登録メンバー数： 33名(2002/6/30現在)

# キックラブビジョン

## キックラブビジョン(W杯開催前)

参加国別権利マップづくり  
挨拶物語集の作成、配布  
W杯開催地の運動  
インターネット協力店募集

W杯開催会の開催

W杯カウントダウンラジオ番組の放送

参加国応援産品の募集

国際交流イベントの企画

国際フットサル・フェスタの開催

子供向け企画の実施

## キックラブビジョン(W杯開催中)

イベント広場の設置

サポーター・ビレッジの設置

スタジアムの受取グッズ

ウローズド・サーキット

街中の飾り付け

文芸スペースづくり

インターネット・カフェ

無料観光バス

W杯後

スタジアム専用の提案

国際スポーツイベントの誘致

総合スポーツクラブ

宮城スタジアム・ボランティア

スポーツ・ボランティア制度づくり

通訳サービス拠点の設置  
案内ボランティア

街頭テレビの復活

情報フースの設置

W杯神社の設置、おみくじ

スタジアム・アート



# キッククラブ・アクティブ ビジョン

2002/07/21 Kiclub Active

## 活動のキーワード

- (1) スポーツ・ボランティア
- (2) 国際交流
- (3) サッカー
- + 会員の親睦

- (1) 宮城スタジアムボランティア制度の提案と実現への取組  
更に、ベガルタ・ボランティアとの連動  
スポーツ・イベントのボランティア活動
- (2)(3) 国際交流フットサル・フェスタの継続実施  
2006ドイツ大会に向けた活動

- (1) ~ (3) の実現のために、  
継続的な組織・個人のレベルアップのためのセミナー企画  
NPO化の検討  
活動を通じて構築してきたネットワークの拡大・交流の強化

981-0135 利府町菅谷台1-12-8

キッククラブ・アクティブ・事務局

FAX 022-767-1080 E-mail: [mura@tagen.tohoku.ac.jp](mailto:mura@tagen.tohoku.ac.jp)

URL: <http://www.c-marinet.ne.jp/~kaz/>